3—171

顧問 大隈重信　會長 島田三郎
同 森村市左衛門　副會長 安部磯雄

廓清

第五巻第五號

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可 大正四年五月十五日發行）

（毎月一回十五日發行）

■廓清時言……伊藤江南
□時代は將に轉ぜんとす……益富政助
■花魁道中禁止請願書……島田三郎
□大阪の矯風運動……林歌子
■凡人の微力……加藤冬作
□廓清の應急手段……安部磯雄
■熱血紅涙……會員の聲
□時論一束……向軍治
■天鼓の響き……會員の聲
□廢娼と離婚問題……上杉愼吾
■危險なる婦人の貞操……光鹽生
□核心なき良妻賢母……廣岡淺子
■春の家……大石枕月
□信仰の慰安……新渡戸稻造
■凡ての時を利用せよ……伊藤繁太

東京 廓清會本部 發行

廓清せよ！
口中の黴菌を。
ライオン歯磨は
其急先鋒たり。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

山室軍平先生著

社會廓清論

定價壹圓
本會員に限り三割引
外に郵税八錢

日本のブースとして一世の景慕する處たる我が山室軍平氏が、心血を注がれたる大著『社會廓清論』が警醒社から出版せられた。全篇を七章に分ち、第一章現存の奴隷制度、第二章娼妓の百人研究、第三章公娼廢す可し、第四章公娼廢止善後策、第五章藝妓論、第六章海外醜業婦、第七章基督教と風俗論といふ風になつて居る、四六版五百餘頁である。例によつて通俗平易で、而も犀利明快に論斷せられてある事は贅する迄もあるまい。會員諸君の一讀を是非推稱すると共に、大方に吹勸あらん事を切望する。希望者は直接本會に申込まれたい。

廓清會編

娼妓自由廢業案内

定價十五錢
郵税とも

娼妓の問題を卑しい事とけなして自ら高しとし、無關心の事として居る者は、未だ眞の自覺に這入つた者ではない。之我等の姉妹の死活の問題である、自分の子弟友人の大問題である。二十世紀に殘された唯一の人道上の大問題である。殊に同性の人にとりては最も重要な婦人問題であらねばならぬ。女子を男子の玩弄物視する思想は實に茲で養成せらるゝのである。新しがる婦人達が之に眼を放たないに至つては我等は何處に覺めた處があるかを疑はずには居られない。

娼妓とはどんな生活をしてゐる者であるか、悲慘な奴隷のそして醜穢な節操賣買の生活から如何にこれを救ふ可きか、我等は何故自由廢業を奬勵するか等を、本書は詳細に語つてゐる。

さけきらいになる藥

身體無害
有効保證

禁酒丸

●定價
半週分六拾錢　●貳週分壹圓九拾錢
一週分壹圓　●三週分貳圓八拾錢

からだに少しもがいなくどんな酒●煙草のみでもきらいになり益々壯健になること保證早くためして御らんなさい

禁煙液

たばこきらいになる藥

—●定價五拾錢—●壹圓—●壹圓五拾錢●—
●●●郵券貳錢送附あれ兩藥の說明書送る●●●

本舗 大阪靱南通二丁目 森田商店

◉御送金は振替口座大阪貳一壹二六番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

生徒募集

一、二、三學年共 五月一日授業開始

本校
- 一年級ハ中學一、二年級
- 二年級ハ中學二、三年級
- 三年級ハ中學三、四年級
- 四年級ハ中學五年級

ニ學科目相當ス

□缺員アルトキハ随時入學ヲ許可ス

□授業毎日午後五時ヨリトス

□規則書入用ノ者ハ郵券二錢封入申込ムベシ

東京市小石川區久堅町九九

私立 中等夜學校

校長 江原素六
主監 水津謙介

毎月一回 一日發行

開拓者

定價一部 十五錢

■傳道號■

■五月號內容■

本號限一册廿錢(郵稅共)

□修養より傳道へ……社説

□滿五十に達したるモット氏……文學士 小松武治

□基督敎の與ふる物……富永德磨

□傳道者の寵手調べ……星野光多

□人一人としての教育……農法學博士 新渡戸稲造

□人物の流行り廢り……農學士 伊藤一隆

□新聞傳道の盛觀……植村正久氏 外十八氏

□自治の精神と宗教……法學士 大塚小一郎

□牧場の春を思ひて……文學士 佐藤繁彦

□基督の人物研究……文學士 栗原基

□三隱者 トルストイ……工藤杜之助

□傳道軍を編成せよ……小松生

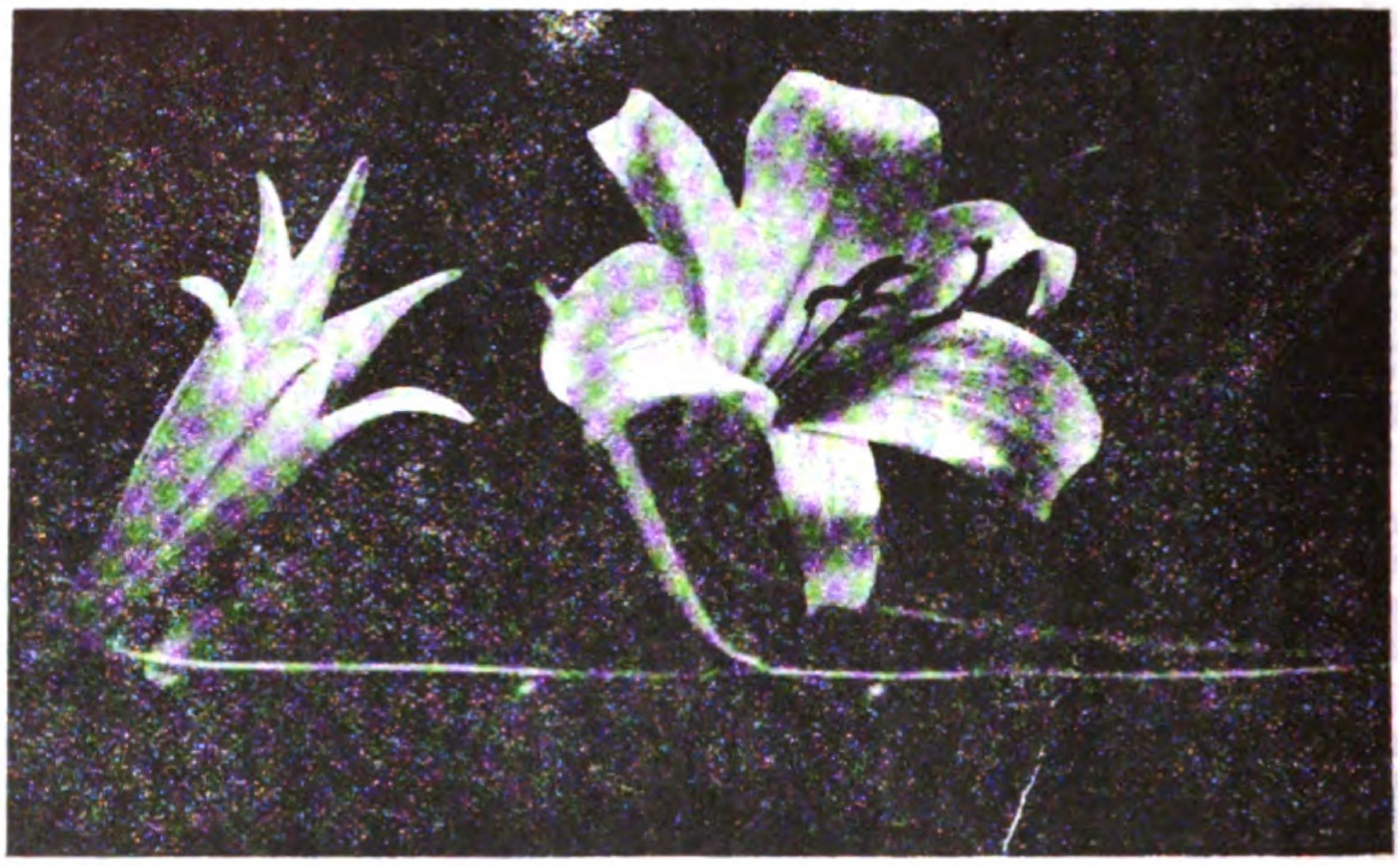
□予が見たる比律賓群島……元田作之進

▲地上のいのち(南信) ▲不良少年を如何 ▲新聞傳道を何と見る

東京神田區美土代町三丁目
日本基督敎青年會同盟本部
振替東京二〇一九六番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清
THE PURITY
大正四年五月
第五巻 第五號



廓清時言

歌ふ者の罪か歌なきの罪か

歌を歌ふ心的狀態は、人間生活の美しき表現の一也。而も少年期壯年期にありては如何なる苦境難關に座しても、猶涙のひまに歌はざるを得ざる內的要求を有す。然るに我日本人の歌ふ處の歌なるものは如何、農夫の野良歌は果して其自然の如く至醇に、其空氣の如く清澄なるものなりや。學生の歌ふ處は果して剛健壯快なものなるや、處女の歌ふ處は果して純潔優麗なるものなりや。試みに彼等の歌ふ處を聞け、曰くちよいとね、曰くどん〳〵、曰くおつぺこ、曰く奈良丸くづし、曰く喇叭節、曰くカチウシヤ其何れか吾人の意を得たる。更に此等の流行歌以外を求むれば卽ち、亡國的非音樂的の浪花節あり。奇妙なる藝術義太夫あり、更に都々逸となり端唄となり、全く公娼私娼の藝術と化了す。

一夕余某所に飯を認む、偶〻隣席に某官立學生の會合あり、牛飮馬食興趣加はると共に放歌亂舞す、而して聲を合せて歌ふ處のものは果して悉く前記の範圍を出でざりき。抑も專門學生なるものは佛語の所謂エリテにして一國の消長を其雙肩に荷ふ。而も歌ふ處、斯の如くんば時事知るべし。歌ふ者の罪か、歌なきの罪か、抑亦健全なる詩歌の要求なきの故乎。

興國的國歌を選定せよ

我國には提灯行列といふ特種の團體運動ありて、美觀云はん方なし。されど歌ふべき歌なき國民は、唯わあ〳〵と叫ぶの外何の歌もなく亂然雜然として、樂隊が勝手な樂を奏で行く後に跟從するに過ぎざるは見苦しき

限り也。殊に青島陥落を祝するが如き國民的運動の場合に於て、一齊にマルセイユにても奏し行かば如何ばかりか壯快なるべきに、我國の國歌は進行曲に非ずして歌ふを得ず、加ふるに其リズムに保守的の響きあり、今日の日本としては今少し興國的の國歌を選定するの要なきか、吾人は勿論提灯行列の爲めに云ふに非ず、民族發展の爲めに敢て之れを云ふ。

花魁道中と桑港博行藝妓禁止

花魁道中が許可せらるべき筋合のものにあらざるは無論の事なれど、既に昨春、畏くも第一期御諒闇中にすら實行されたる處なるを以て、本年も如何あらんかと衷心多少の危惧を感じ、別項の如く會長名義を以て禁止請願書を提出し、之が防止に努めたりしが、當局者は吾人の志を容れ、遂に擧行請願書を出願者に却下したり。

桑港博へ京都藝妓の櫻踊りを出演せしむる運動も、略ぼ整ひたる由報せられたるを以て、吾人は即時禁止請願の筆を執ると共に進んで主務省と協贊會に迫まる處あらんとしたりしが、大出來にも、主務省は藝妓と名の付くものは出演を許さず、興行主は止むなく踊りの出來る者を藝妓以外に求め、此程辛く豫定の人員を得て出發せんとしつゝある由。

以上、花魁道中の禁止と言ひ、藝妓の出演禁止と云ひ、近頃會心の報道也。

尙、怨むらくは京都に於て太夫道中なるもの行はれ、各地に藝妓の踊りの公演せられつゝある事にして、當局者の覺醒に對し、國民の眠りの何ぞそれ深きや

酒の上は猶嚴罰すべし

埼玉縣大宮に於ける飛行家と法曹家數十名の亂闘程近來惡感を覺へたるものはあらず。一方は現代社會の花形として一世の視聽を集むる陸軍飛行將校連にして、一方は此種の事件を批判すべき任にある判檢事辯護士等の團體なり。即ち社會的地位より見て全くあり得べからざる奇怪事とす。吾人は茲に其曲直を論究する必要を見ずと雖、陸軍の當局者某々等が『酒の上だから』といふ語を吐けるを聞いて一言を惜しむ能はざるに至れり、蓋し日本の法律に於ても、國民の實際的生活に於ても、酒の上なれば情狀を酌量せらるゝ、之れ誤れるの甚しきもの也。酒が果してしかく精神を異常ならしむるものなる事を熟知せば、酒盃を手にする刹那に於て其行爲は故意として論せらるべき筈ならん、即ち不法なる行爲の演せらるべき明白なる豫期の上に立ちて發生したる事件に對して、責任を免れ得る理由何處にかある。吾人は寧ろ突發的事件に對しては同情すべき所以を知るも、酒の上の不德不法に對しては毫も假借すべき所以を見ず。寧ろ大に嚴罰に處すべきものなりと信ず。

抑ゝ酒によりて自己の意識を晦澁痲痺せんとするが如きは自ら人生的自己の存在を拒否するものにして、迷惑の他人に及ぶと否とを問ふ迄もなく、自分自身に對して罪惡を行ふの責めを免る可からず。

飛行將校の墮落

大宮事件の原因は、飛行將校が藝妓に振られたるにありとの噂あるは、醜の極言語同斷なり。若し之を事實に非ずとするも、其卒業祝賀の宴席に藝妓を侍せしめ酒を呑みたる事だけは確實なるが如し、吾人を以て之を云へば最早それ丈にて

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

澤山なり。好んで良心痲痺の藥を呑み、賣淫婦と談笑するは別段後めきた事に非ずといふや、見よ果然某飛行家は神樂坂藝妓と情死を遂げたるに非ずや、陸軍飛行界の腐敗想察すべし。當局者は猛省一番之が刷新の一手段として飛行將校はすべて禁酒を誓はしめよ、之飛行家は空界征服の重任を有し、一世の視聽を聳しつゝありて風敎の上に影響する處甚大なるが故のみならず、氣壓の非常なる激變に抵抗し毫も眩暉を感せざる程の强健なる身心の必要を思ふが故に然り。

孝行娼妓とは何ぞや

四月廿九日の都下各新聞は、四十三歲になる婦人が八十幾歲になる老母へ孝養の爲娼妓となりたる事實を報道したるが中に『四十三歲の孝行娼妓現はる』など題したるものあり、輿論の指導者たるべき、而も堂々たる帝都の大新聞が、斯かる事實を報導する丈にても忌むべき事なるに、孝行娼妓などゝ泥棒して親を養ふよりも見下げたる淺ましき行爲に對し、今尙ほ賞讃の文字を連ね之を推奬せんとするは何事ぞ。

娼妓年齡引下げ請願

此程吉原遊廓代表者より、從來娼妓の就業年齡十八歲以上とありしを、十六歲に引下げの請願を呈出したる由にて、時勢に迂なるも甚しと、世間の冷評をかち得たるが如し。されど飜つて思へば彼等の請願の裏面には至極尤もなる節あり、卽ち今日の遊廓は極めて無理なる慣習にして、全く婦人の無智に乘じたるものなり、文化漸く普及すれば彼等の動搖を見るは必然にして、無智の少女も尙年齒の熟するに從ひ、娼妓稼業の淺ましき事、若くは割に合はぬ事を解して之に投ずる割合を減ずべく、既に投じたる者は年と共に自廢の志を起し來り慰安會なんどの必要も生ずる譯にて、彼等が窮餘の策として年齡を引下げて殘忍にも物の道理を辨へざる年頃に乘じて之を縛し、金轡を篏めて彼等の營業を比較的安固に繼續せんとするは、賢明なる企てにして、決して愚なる謀に非ず、寧ろ時勢を知るの請願なりといふを妥當とすべく。また廢娼の機運の熟しつゝあるを知るべし。

川崎遊廓の情死頻出

川崎町に於て、山田伊藤の兩氏悲壯なる人道戰の犧牲となられてより、僅々二ケ月にして二百に充たぬ川崎娼妓中より二回の情死者を出したり、人命の貴重なるは何ぞ說くを須ゐん、而も一般世人の此事實を冷眼視するは何故ぞや。情死の娼妓の間に最も行はるゝ所以のものは、第一彼等に自由なきが故也、而して最後の賴みの綱たる自由廢業は、有力なる救世軍の後援ありてすら曩日の如き結果を見るとすれば、同地娼妓が警察と遊廓との關係を濃厚にして到底削除申請を受理せらるゝ見込なしと絕望し、一死唯正に苦悶を脫するに如かずと此等の擧に出でたるものに非るか、然らば之に春秋の筆法を用ふれば、川崎警察娼妓を殺すといふ事となるべし、戰慄に値せずや。之を一川崎の事件とするは誤れり、自廢防壓の結果は、悉く然らん。當局者の一考を促す（江南）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓清の根本問題と應急手段

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

□公娼私娼となるも可

廓清會の主張は是迄聲明し來つた所で明瞭になつて居る、即ち公娼制度を廢して終はうと云ふのであるが、世には之に對して大なる誤解をなしてゐる者がある。其議論に據れば、公娼を廢しても國民全般の道徳心が進歩して來なければ、密賣淫なるものは決して無くなるものではない、否或は却つて今日よりも増加するかも知れない。されば廓清會が其目的を達して、愈〻公娼を全廢することになつても、其大目的たる賣淫なるものは決して少くならない。そうすれば廓清會の主張は無意味であると云ふのである。是は第一の大なる誤解である。私は十萬の公の娼妓を廢して、其が爲に十萬の密賣淫が出來ても、風教上大なる利益があると思ふ。一體賣淫など云ふ事は何れの國何れの世にもあるものであるが、かゝる醜惡なる事は世の表面に顯はして置くものではない。無論絶滅するのは望ましい事であり、我々の理想も其處にあるが、容易に絶滅することが出來ないとすればせめては之を世の表面より除き去りたい。今日我國が此の公娼制度を存置して置くが爲に蒙る所の害は決して少くないのである。我々は密賣淫をも無くして終つて、不品行の人が無くなる樣にするのが理想であるが、其手始めとして、其尤も甚しい公娼を全廢して終はうと云ふのである。そして第二には進んで私娼即ち密賣淫をも全滅せしめる樣にしたいと云ふのである。

□根本問題を先にすべきか

又外に廓清會に對する誤つた考がある。夫は表面の規則を改めて、公娼制度なるものを廢したとした所が、其根本問題の解決をなさぬ中は、何等の利益はないであらう。根本的問題とは即ち國民の道徳である。國民道徳を向上發展せしめたならば、公娼制度も私娼もなくなるではないか。此の根本問題を努めないで、枝葉の方に汲々して居るのは間違つた事である。廓清會や救世軍が吉原、洲崎などを廢止せよと運動するのは馬鹿氣た事である。世の中には佛教もあれば基督教もある、此等宗教の力で國民を感化し、國民をして此の醜惡なる所業を爲さぬ樣にすることが必要であらう。此の根本問題を努めずして、法律の力を藉りて遊廓を廢止しようとするのは卑劣手段ではなからうかと云ふのである。此議論は一應尤もの樣にも聞えるが、能く考へて見ると非常な誤りがあ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

る。根本正氏は先年の議會に幼年禁煙法案を提出して、今は立派な法律になつて居るが、之が議會の議に上つた當時は頗る反對があつた。其反對の論據も廓清會に對する誤解と同樣である。其主意は『煙草を喫むと云ふがごとき事は法律で禁止すべき者ではない。其人各々が注意すべき者で、法律の力を藉らずとも、其害を知つたならば、誰れも喫煙する人は無くなるだらう。故に法律の制定よりも先各人を教育して喫煙の害を知らしむる事に努める方がよからう』と云ふので、此議論は深く日本人の頭腦に浸み込んで居て、何事でもこんな筆法で論議する。根本君が同じく年々議會に提出して通過を努めて居る「幼年禁酒法案」の如きも、今日では餘程注意を惹く樣になつたとは思ふが、まだ〳〵法律とならない。そして其反對の理由が、矢張前の幼年禁煙法と同じ樣に、幼年者が酒を飲むと云ふ事は、其父兄の道德の觀念から、又は衞生の考から注意すべき者で、法律を制定するよりも其害を明瞭にすると云ふ根本問題に努力すべきであると云ふのが主なる議論である樣に思ふ。勿論我々が公娼問題、賣淫問題に付て努力すべきは根本問題で、精神教育を決して忽にはせぬのであるが、別に法律の力も藉らねばならぬ。賢なる智力ある人には道德の力、理論の力で害惡に陷らしめざる事が出來るが愚鈍なる人に對しては法律の力を藉りて之を制止せねばならぬ。其だけの能力あるものは自ら其判斷に由りて事を行はしめても差支はないが、其だけの力のない者に對しては矢張警察の力で禁止せねば害惡に陷る事を防ぐ事が出來ない。根本君の「幼年禁酒法案」も今では人が之を馬鹿にして「又か」と云つた風にして居られる。尤も一回は衆議院を通過した事があるが、貴族院では之を否決してとう〳〵法律とならないで、今日までに及んで居る。又矯風會で年々議會へ請願書を提出して居る「男子の姦通問題」も幾年間出しても顧みる者さへない。そして此等の問題に對しても、世人は道德問題であるから、其道德上の根本問題に努力すべきで、法律の制定なぞは枝葉であると云つて居るのである。然し此等は皆大なる間違である。

□應急手當の必要

世の中の總ての事は其根本的改良と共に應急の手當が必要である。病氣にしても體質が弱いからこんな病が起つたと云ふ時には體質を強固にするのが根本問題であるが、然し現在苦痛を感じつゝある病症に對しても藥餌を投じ、手當を加へて治療せねばならぬ。傷を受けたなら石炭酸とか、ヨードホルムとか云ふ藥を附けて消毒するのが對急處置である。一體斯くの如く負傷するに至つた根本問題は、其人の不注意からであるから、成るべく注意を怠らぬ樣にせねばならぬと云つて傷口を放任して置く譯には行かぬ。元より根本問題を務めるのは無用ではないが、今現に苦痛を感じ、傷を受けて居るのは其を手當せずして、根本問題を云々するのは盜人を捕へて繩を綯ふの類であると思ふ。

根本治療も無論大切であるが、應急手當も亦大切である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

之を家屋に譬へて見ると、尙一層明瞭になるであらう。東京は火事の名所で、昔は之を江戸の花など〻云つて名物の一つにして居たものである。成る程マッチ箱の樣な家屋を建て〻置くから之が燒けるのは不思議はない、されば東京で火災を防ぐ根本問題は決して消防署の增設とか、消火栓の設置とか云ふ事よりも、先づ家屋の改良である。家屋が若も悉く煉瓦石造であつたならば斯く頻々たる火災は起らぬのである。是は明かなる事柄で誰も之に對して異議を唱へる者はない。然し今何處かで火事がある、現に燒けつゝあるのに、ナニ消防の根本問題は家屋の改造にあるのである、家屋さへ改造すれば火事は起らぬから、打捨て〻置いてもよい、火事は消さないでもよいとは云はれぬ。公娼問題も其と同じに、宗教道德、敎育が根本問題であるから、其を解決すれば自然に無くなる故に打捨て〻もよいとは云はれぬ。公娼遊廓は恰も今火事で燒けて居る所である。吉原も洲崎も屢〻眞物の火事で燒けたが、本統の火事ではない、恰も火事の燒け出したが如く、大害をなす者が彼方にも此方にも燃えつゝあるのであるから、根本問題を考へるよりも先應急手當として、我々は蒸汽ポンプや何かを持つて馳付け、之を消さねばならぬのである。是が我々が今日の應急手當として先づ公娼制度廢止を主張する所以である。

□溝は人の目に觸るゝな

我日本國は今日に於て財政が缺乏して居るから、人々の生活が困難を感じて、從つて男女の結婚の如きも甚だ六かしくなつて來たのである。試みに今日の新聞紙を見ると時々「花婿花嫁」の寫眞が出て居る。其花婿の年齡を見ると、學校はどこを出て、何役、何々會社の重役で年齡は三十歲である。又花嫁は何々女學校の出身なる秀才で、年齡はと云へば二十三歲とか四歲とか云つてある。然し昔しは財政は今日程缺乏して居なかつた爲に生活が容易であり、結婚しても生活費に苦まぬから、結婚する者も年齡が早かつたので男子は大抵二十二歲、女子は十八九歲であつたが今日は之に反して、結婚は早くしたくも生活に困難する所から容易に結婚せぬので三十歲迄も獨身で居なければならぬのである、故に此等の晩婚者の一時の情慾を充すが爲に娼妓なぞが必要になつたのである。卽ち娼妓なる者は進んだる社會には必要なる者であると云ふ者もあるが、是も甚だ誤つた見解である。若も男子の情慾を充すが爲に娼妓が必要であるとするならば、女子の情慾を充すが爲に男娼の設置を必要とせねばならぬではないか。よし假ひ娼妓が必要な者であるとした處で、男女の關係は公然人々の見る所で行ふと云ふ樣な國がどこにあるか。こんな事は暗い處、祕密なる所に於て行ふものである。イヤ男女の關係は暗い所で行ふべき者であると云はゞ何だか變な事を思ふ人もあるかも知れぬが、私が云ふのはそんな意味ではない。全く娼妓とか藝妓とか云ふものは、假ひ其必要があるにもせよ、社會の表面に曝して公然人に見すべき者ではない。恰も溝の如き者であるから、成るべく人の目に觸れる樣にせぬが宜しい。ところが今は其溝を公然公衆の目に觸れしめて何とも思はぬのみならず、到る所に其溝水が氾濫して大道を流れて居ると云ふ有樣になつて居るのである。

文部省では學生に對し、品行方正になれ、惡い事はするなと、苦心して居るが、中々困難な事で、其八ケ間敷云ふ中から不良少年が續々出來て居る。此は何の爲であるか、物事は耳に聽くよりも目で見る方が一層深い感を與へるのである。文部省が如何に八ケ間敷云ふても、實物敎授を以て、娼妓や藝妓を公然許して、之を青年の目に見せて置いて、それで品

行をよくせよと云つても行はれる者ではない。故に教育上から考へても斯かる醜業を營む者は靑年の目にも耳にも入らぬ處に押込んで置く樣にせねばならぬ。然るを今日はどうである、娼妓の如きは盛裝し店頭に坐して他を誘惑するに便ならしめ、藝妓の如きも美衣を纒うて公道を往來せしめて居る。是は實に間違つた話である。卽ち廓淸會は斯かる醜業を絶滅して終ひたいが、若も絶滅までにひまいるならば、せめては之を公許することはせず、そして存在しても人の目に觸れぬ樣に社會の裏面に葬りたいといふのである。

花魁道中と助六の芝居

日本の社會の多數は娼妓や藝妓の業を左程に惡いとも思はぬ。舊道德では女は賤しい者として居たからで、日本の文學なる者が皆淫賣婦の文學である。此の道德思想を以て、此文學に養成された我々の頭には、狃れて終つて賣淫を罪惡と思はぬ樣になつたのである。先づ文學の上乘なる演劇を見よ。宮城野、信夫とか、忠臣藏のお輕とか、大抵賣淫婦の事が其中に這入つて居ない劇はない位である。此頃東京でも有名なる劇場「歌舞伎座」とか「市村座」とか云ふ所では『助六』を演じて居る。其文學の價値はどうでも現在遊廓の狀態を、舞臺上に演じて公衆に見せびらかして居る。今年吉原遊廓で出願して擧行せんとした「花魁道中」は政府が之に許可を與へなかつたので、已むを得ず行ふことが出來なくなつたが、何故に「歌舞伎座」と「市村座」で公然やつて居る「花魁道中」を禁止せぬのであるか。

文部省の當局者も、內務省の當局者も頻りに風敎の問題を說いて居るが、靑年少年の見物に往く劇場に於いて公然「花魁道中」を見せて居るのである。博士幸田露伴君は『日本の文學は昔は公娼文學で、吉原あたりの娼妓を理想として出來た者であるが、今日は其が變じて私娼文學となり藝者を其理想として居る』と云はれた。是は全く事實であるが、幸田博士は公娼と私娼を區別し、公娼より私娼に變つたと云はれたが、私は、娼妓藝妓何れも同じ者であると思ふ、卽ち公娼とは、誰でも氣の付く所にある者を云ふのである。其は吉原の娼妓が一番人の目に附くので、是は公娼の偉い者であるが、藝妓でも若も彼の如くに人の目に着く時は矢張公娼と言つて宜しい。新橋あたりの藝妓が自働車に乘つて白晝公然、市街を乘り廻はして居るのを見ては、矢張吉原の張見世と一般で公娼と言つて宜からうと思ふ。我々は學術的に公娼と私娼と區別するのではない。社會風紀上から見れば、吉原の公娼でも、淺草の十二階下に居る私娼でも悉く公娼である。社會の誰にも見ゆる所にそんな者を置くことは斷じて許す可からざる事である。德川氏の時代に之を許して置いたと云ふ事は意味のある事である。言はゞ丁度避病院の如き者で、斯かる者に由らざれば滿足の出來ぬと云ふ精神的病人の爲に置いたのであるから、成るべく遠方の處に持つて行つたのである。三百年前の政治家は已に遊廓なる物を避病院と心得たから、市街の中に置く可き者ではないとして、市街を離れた吉原に置いた

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

のである。政治家としてはかうでなければならぬ。然るに今日では其避病院を市街の眞中に立てゝ恐れないと云ふに至つては何たる不都合であらうか。駒込でも巣鴨でも避病院は皆市街よりかけ離れた處か、又は片隅に設けてある。そして巣鴨でも駒込でも餘程の關係のある人でなかつたならば患者に面會の爲でも、又は其の外の用事でも滅多に内に入れない樣にしてある。まして其避病院で園遊會なぞを開くことがあつたならば如何であらうか、今日吉原の夜櫻なぞは恰も傳染病收容所に園遊會を開いたも同樣である。遊廓内に櫻の花を植込んで、其下で多數の公衆が押合つて歩き廻はる、況んや之に加へて娼妓の『道中』などを許したなら全然ペスト患者や、チブス患者を園遊會の仲間に入れたと同じである。

廓清會としてやつて居るのは之を禁止したいと云ふのである。娼妓なる者を公然許して置くから夜櫻も出來れば、道中もするのである。こんな事は人の目に觸れぬ樣に社會の裏面に葬つて置きたいと云ふのが其主張である。公娼なる火事が處々に燃え着いて炎々火焰を揚げて居るのであるから消防隊即ち法律を出して之を消さねばならぬので、今日の場合根本的にやる隙がない。先づ之を消して而して後に根本問題に取掛らねばならぬのである。

花魁道中禁止請願書

今般吉原遊廓にては花魁道中なるものを催す計劃ある由、大正昭代の一大痛恨事と存候。

本來遊廓なるものは隔離主義の上に立つものなる事言を俟たず。然るに花魁道中なるものは畢竟賣淫のデモンストレーションにして、全く有り得べからざる事に候。そが廓内に行はるゝとも事實に於て、以て都下幾萬の老弱を吸集し、淫風宣揚の淵源となるは疑を容れず。加ふるに道途繪葉書となり進んで活動寫眞となるに至つて流弊震慄に値したるは昨年に於て充分に經驗したる筈に候

吾等は之を遊廓の本質より觀、國家風敎の上よりし、即時禁止せられん事を熱望仕候。而して更に此花魁道中が在留の外國紳士淑女に對して非常なる惡感を與へつつある事をも御記憶相成度。現に我等に向つて警告せられたる外人も尠からざる次第に有之候。冀くば大正の新時代に賣淫の示威運動を見るが如き、醜穢なる痛恨事なからん事を。

右閣下の賢察明斷を仰ぎ度謹而及請願候也。

大正四年四月十日

廓清會長　島　田　三　郎

警視總監伊澤多喜男殿

時代は將に轉ぜんとしつゝあり

廓清會理事　益富政助

一　大隈首相と基督教

抑も基督教の日本の社會に認められ、殊に政府當局者より認識せらるゝに至つたのは、先年内務省主催の下に開かれた神、佛、耶三教會同の時を以て初めとする。當時此會同に對して反對した人々も少くなかつた如であるが、當局者は少しも顧慮する所なく、神道者、佛教者と同じく基督教者をも招待することを決行したのであつた。斯くて久しく繼子扱された基督教が公然日本の社會より認められるやうになつた。

然るに、今回の東京市協同傳道に於ては基督教が啻に社會の認識を受けたと云ふのみならず、寧ろ社會の尊敬を受けて居ると云つても差支は無いと思ふ其の一度傳道の火蓋を切るや現内閣の機關にして、最も有力なる報知新聞は率先して是れに賛同を表し、萬朝報亦我等の爲めに有益なる苦言を呈して呉れた其の他都下十數の新聞紙は何れも皆、或は社說に於て又は雜報に於て之を認識し援助を與へつゝあることは諸君の旣に詳知せらるゝ所であらう。

然かのみならず過日の帝國ホテルに於ける名士招待會には、内閣總理大臣大隈伯爵閣下も出席せられて、基督敎のため大に讚辭を與へられたことであつた。名士招待會に就ては世間是れを非難する者もあれど之は日本の基督敎の歷史上深い意味のあることであると思ふ。殊に大隈伯爵は明治の初年長崎に於て基督敎を迫害した當局者の一人であつた。（當時中村敬宇先生は「鐵は打てば打つ程堅くなる、基督敎徒の信仰も亦迫害すればする程信仰の質がよくなるばかり到底撲滅の功を奏することは出來ない故、止す方が得策であらう」と云ふ切なる諫言に依つて、政府の迫害は中止されたのであつた由、伯爵から直接に聞いた）

然るに今や大正四年に至り、其の大隈伯爵が基督敎徒の會合に出席し、而かもそれが單なる一私人としてにあらず、内閣總理大臣といふ一個の公人として出席し、基督敎の運動に賛成を表し讚辭を呈されたのを見ても、時代は將に轉ぜんとしつゝあるをトすることが出來る。

二　首相と廓清運動

更に席上伯爵は基督教が社會廓淸の事業に貢獻する所の大なるものあるを認め、其の功勞を多しとし、殊に婦人問題に對して明かなる解決を與へんとして居るのは、政治當局者としても感謝する所であると云つた。要するに總理大臣は基督教の矯風的方面の貢獻の著しきを認めて居るのである。又伯爵は京都に於て開かれたる婦人矯風會大會にも左の祝辭を送られた。

日本基督敎婦人矯風會ガ過去二十三年間我國社會矯風ノ爲ニ盡瘁セル其功勞ハ正ニ沒スベカラザルモノアリ殊ニ本月本日ヲ以テ大會ヲ京都ニ開キ引續キテ本年中同地矯風ノタメニ努力スル所アラントス

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

抑モ京都ハ今秋　今上天皇陛下御即位大禮ノ擧行セラルヽノ地ナリサレバ今ヨリ大ニ之ガ淨潔法ヲ講ジ其風俗ヲ醇厚ニシ其人心ヲ純潔ニシ啻ニ衛生的ニ病毒ヲ絶滅セシムルノミナラズ道德的ニ淸淨無垢ノ地タラシムルハ今日ニ於テ最モ必要ナル事ニ屬ス

是ニ於テ予ハ矯風會ノ活動ニ對シ敬意ト感謝トヲ表スルニ吝カナラザルモノナリ之ヲ祝辭トス

大正四年四月一日　　伯爵　大隈重信

之亦、前代に類例なき事である。知るべし時代は將に轉せんとしつゝあり。

三　現内閣の風紀振肅

現内閣は其の成立以來孜々として社會の風紀振肅に努力しつゝあるが、其の成立當時安部先生が、呼んで非新橋内閣と云つたのは極めて當を得たる辭であつたと思ふ。想ふに過去に於ける我國歷代内閣の當路者にして男女間の道德に就て非難の點を有しないものは、少ない。然るに現内閣の諸大臣が少なくとも此點に於て過去の何れの内閣諸公よりも一段優れて居るとは何人も之れを認むる所であつて、確かに異彩である。曾つて某公爵が總理大臣たりし時、日本橋の某小學校に行つた事がある。時に學校の當事者は總理大臣を迎ふるに其小學校出身の雛妓數名を其の座右に侍せしめて、以て大臣に對する最高の敬意を表したこともあつた。

私は今日早稻田邸の園遊會に招かれて出席して、只今歸つたばかりの所であるが、一千餘名の大集合に一人の藝妓が居らなかつた。之は事甚だ小なるが如くにして而かも社會の風紀上極めて重大なる現象である。加藤弘之博士は宴會に藝妓無用論を唱へて居らるゝが、藝妓が必要などゝいふのは、或る野心家の口實である。又毎年吉原に於ける花魁道中を許可されて來たが、幸ひに今年は我等の多年の希望と其運動功を奏して之が中止を見ることを得た。昨年の花魁道中の如き或は其の繪ハガキを作り或は活動寫眞に撮影し、之を純朴なる地方の青年男女に見せて、盛んに淫風を鼓吹したのであるが今年は之もなくなつた。

又來る五月には大隈伯は前橋に行かれる筈であるが、想ふに伯爵は、日本唯一の廢娼縣たる彼地に於いて必らず廢娼演説をなすことであらう。見よ、時代は將に轉せんとしつゝあり。

四　總選擧と花柳界

聞くが如んば去る三月の總選擧に際し全國の花柳界は甚だ寂寞を感じた。總選擧と云へば、彼等花柳界に於ては年中の書入れ時であるのに、今年の總選擧は今迄にない言論戰の盛んなりしに引代へ花柳界は閑として聲なき有樣であつた。諸君此處にも時代の變徵を見得るであらう。

五　戰亂と禁酒

此度の戰爭に於て露國は遂に國家的の禁酒を斷行した。而して英國に於ても亦　皇室は範を國民に示す爲めに禁酒を決行せられたのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

我國に於ても日獨戰爭に於て九州の兵が出征の際是等出征軍の中隊長は日露戰爭に於て酒が兩軍を惱ましたことの甚だ少からざるを語り、且つ此度露國に於ては遂に國家的の禁酒を斷行したことを述べて、出征の途にある軍人は宜しく飲酒を禁ずべきことを訓示した。

過日某海軍大官の言に海軍の酒保の名が遠からず改まるであらうと云ふことだ。又或人が戰爭には酒を以て勇氣を付けねばならぬと云つたのに答へて、現八代海軍大臣は帝國の軍人は上陛下の稜威と、大和魂によりて戰に臨むのであつて酒の上の附元氣で、辛うじて戰ふべき軍人ではないと、手嚴しく言ひ放つた。時代は將に轉ぜんとしつゝある。

六　婦人の權利振張

先つ頃一人の離婚せられたる婦人が、其の損害賠償を法廷に訴へた所が、それが遂に大審院に於て勝訴となり。今までにない新判決例が開かれた。元來日本の婦人は社會上に於て男子と同等の權利を認められず、妻が姦通した場合に夫は之を法廷に訴ふるを得れども、夫が姦通したる場合に妻は之に對して一言半句の訴ふる道がなかつた。然かのみならず精神的に觀察して見ると夫は妻に對して殆んど生殺與奪の權を有して居た。例へば夫は自分の氣に入らぬ場合に勝手な理屈を付けて之を離婚しても妻は何等訴ふべき道を持たぬ、只泣寢入りに承認するより外はない。或は又家風に合はぬとか、舅の氣に合はぬとか種々なる理由の下に、今日迄どれだけ多くの婦人があたら其の處女の神聖を汚されて、而かも何の訴ふる道もなく獨り悶々の情を抑へて涙に咽び來たことであらう。正規の結婚をしたのでも既に斯くの如くであるから況んや内縁の妻に於ておやである。其の妻としての義務は正規の手續を了した妻と何等の變る所がなく社會も亦之に對して妻としての道德的要求をなして居りながら法律は之を妻として認めない。私は或る關係から官に働く人々で公傷せる者の世話をして居るが、夫等の人々の内縁の妻が、唯其の内縁たるの故を以て夫が負傷又は死去した場合にも扶助料一文貰へぬのである。何たる悲慘なことであるか。

然るに此度の新判決例により一度公然と夫婦關係を結び、人の妻となり且つ妻としての義務を盡して居りさへすれば、假令法律上には正規の手續を踏んで居らずとも、日本の法廷は之を妻として認識するのみならず、其の精神的物質的の損害賠償をも要求し得るに至つたのである。之れ時代變轉の著しき休徵である。

七　幼年保護法案

娼妓の自由廢業も今日まで決して容易ではなかつた。殊に藝妓に至つては養父母養女の關係から容易に廢業することが出來ない。併し來るべき第卅七議會には、大場博士の立案に成る養女保護法案が提出せらるることであらう。斯くて不遇の藝娼妓が救はるる時が來るであらう。一體藝妓は親が娘を藝妓にする場合、藝者屋の主人から幾何かの金を受取ると同時に、其の娘の戸籍まで先方にやつて藝者屋の養女とするのであるから、後日其の女が廢業しやうとしても容易に廢業し得ぬことになる。偶々我々が其の悲慘なる境遇より之を救はんとしても極端に親權の重んせらるる我が國に於ては、其の娘の親權を握る親に對して我等他人から何の異義をも申立てることの出來ぬことになつて居る。然るにやがて提出せらるべき幼年保護法案は此關係に對して打擊を加へ、親權を以て其子に不道德を強ふるが如き一切の奴隸的狀態を嚴禁するの

である。西洋では如何に親でも其の娘に對して淫猥なる行爲を強ゆることが出來ないのみか、之は法律上の一大犯罪となつて居るが、日本では未だ其處迄行つて居らぬ處か、罪惡は親權者の名に依て行はれて居る。之は是非共改めねばならぬ否遠からず改めらるることであらう。

八　小學教育と藝娼妓

加藤弘之博士が基督教に反對して居るにも拘らず、廢娼運動には少からず贊成の意を表して居ることは諸君の既に知らる所である。私は過日博士の紹介で女子高等師範學校の中川校長を訪ひ、全國小學校の女生徒にモット貞操の重んずべきことを敎へられんことを望み、貞操を賣つて親に孝を盡すのは恰も隣家の物を盜んで親を養ふといふのと同じであることを說いて貰ひ度いと語るや、中川校長は非常に此の說に贊成された。私は思ふ今日の娼妓は皆所謂身賣を以つて親孝行とする舊道德に支配せられた結果斯かる稼業に就くのであるから、若し如上の說にして一度實行せられ其の效を奏するとせんか、今後七年間に娼妓の候補者を無くすることが出來るであらう。それから私は女子敎育家ともあらうものが其宴會などに藝妓を招くなどは怪しからぬことだと言つたに對しても、中川校長は同感と曰はれた。想ふに今や思慮ある敎育家は皆同じく此社會風敎の問題に就て心を痛めて居ることであらう。時代は將に轉せんとしつゝある。

九　廢娼論の優賞

更に聞く所に依れば我が廓清會の、靑年會員は此程雜誌「雄辯」の懸賞募集に應じ、廢娼論の投書をなして一等賞を取つたといふ。事小なりと雖ども茲にも社會風敎の傾向が、一變しつゝあるのを認めることが出來る。時代は將に轉ぜんとしつゝあり。我等は此時に於て大に奮鬪努力するところあらねばならぬ。

大阪遊廓廢止と矯風會

大阪婦人矯風會長
廓清會評議員　林　歌子

▲大阪遊廓運動の第一期

私は田舍に生れた者で、今より二十二年程前に大阪に參りましたが、其時第一に感じましたのは、大阪の市街が眞にせまい事で、少し大きな身體でありますと、閊へて步かれないと云ふ樣な事でありました。第二には高い二階に布團が干してある事でありました。始めの中は氣が附きませなんだが、だん〳〵聞いて見ると、其が東京の遊廓にある貸座敷である

と云ふ事で、如何にもいやな感じが致しました。東京では吉原洲崎と幾分なりとも片隅に片寄つて居りますが、大阪ではかう云ふ所が市の眞中に四箇所五箇所あつたのであります。大阪ばかりがかうであるかと申すに、神戸にも京都にもあるのであります。かゝる遊廓貸坐敷を公然人の目に觸れる處に存置せしむると云ふ事は、目と耳と兩方より人を感化せしめる事になつて如何にも其害は深く且つ强いのであります。少年青年の男女にこんな所を見さしめ、こんな事を聞かしめ、現に干してある布團などを目撃せしめたならば、どんな氣を起すのでありませうか。私は思ふても誠に〳〵戰慄致しますのであります。所が明治十七年に大阪に日本基督教婦人矯風會の支部が組織設置せられました。其頃は何でも此の遊廓を他に移轉せしめねばならぬと主張し、盲目滅法に運動を致し然るに其當時は何人もそんな點には氣附かずに過ごして居た何でも骨折りさへすれば効果は顯はれる者と信じてやつて居ましたが、其効は更になかつた。年々婦人矯風會で帝國議會に請願書を出す事を思ひ出し、府知事に對して遊廓移轉の請願書を作り有志家に調印を求めた所が、五百人又は六百人の賛成を得たので之を提出し、時折りは演說會をも開いて、移轉を主張致しました。

▲遊廓移轉が廢止と變ず

明治四十二年の七月卅一日には大風が吹起つたが、折しも大阪北の新地より出火して新地全體が全然燒けて終つた。此北の新地は御承知の如く、梅田停車

場の直近くで、云はゞ大阪の玄關口であります。其表玄關口にかゝる不潔な所を置くと云ふ事は甚だ市の體面に關すると云ふて、此が移轉には最も力を盡して居たのであります。こゝに一寸御話しゝて置くことは大阪の遊廓には娼妓と藝妓とが一緒に居て、娼妓なるものは辛つと百人位、其他は皆藝妓でありますが、其藝妓は矢張娼妓と同様でありますから、其害毒を流すことは一層甚しいのであります。此の遊廓が燒けたのでありますが、此時は猪言ふとなく「遊廓移轉」を斷行せよと云ふ聲が期せずして頻りに起つて來たのであります。一方火災で燒けたのであるから、羅災民には非常に苦む人があるので、私共は之が救濟に力を盡し、一方には遊廓移轉の爲に運動致しましたが、此時は社會から非常なる同情を博し、遠方では臺灣からも沖繩からも、確乎せよ、成功を祈るなどの書翰を送られた。勿論東京からは澤山に有形無形の助けを得たのであります。そして私共は四十日間晝夜間斷なしに運動しました結果、七月の大阪府の府令によりて、●●●●●●●●●●北の新地の遊廓は再建を許さずとの意味を布告せられたので全滅することになつたのであります。私は神の御惠みと同情を寄せられたる諸氏に感謝致します。然し其後になつて其處に演舞臺が設けられ、又藝妓は元の通りに存置せられてあります。私共は之をも無くしたいと思つて居りますが、また其までには逹することが出來ません。

▲難波新地の廢止成功

明治四十四年四月十日に東京の吉原が燒けた爲に、之が再興反對運動が基となり、廓淸會が生れました。實に是は不思議なる惠みであります。其時大阪の方にも本部から廓淸會組織の相談がありました。元より其主義でありますから直に賛同して、大に其成立と擴張とに力を致したのであります。そして居ります内に今より三年と三ケ月前大阪南の地方の大火で、難波新地が燒けて終つた。此處は甲部乙部と分れて居りますが、最も下品な所で、何れの妓樓も所謂張見世をして、他を誘惑するに努めて居る所で、從つて其害毒も甚しかつたのでありました。然るに此の新地の妓樓が百三十九戶燒失しました。私共は實に驚いた。どうした者であらう。罹災の人々を救濟せねばならぬと考へて

居りますと、また火が盛んに燃えて居ゝ最中、新聞記者の方から『貴方の方の難波新地遊廓に對する策戰計畫は出來たか』と申し來つたのであります。妓樓の方はまだ燒け切らぬ中に、此方では祕密會議を開いて居ると云ふ騒ぎでありました。それから一方は慰問隊を組織し市の徽章を附けて罹災者を救ふことに努め、一方は市長を訪問して遊廓再興反對の運動を起した。此の時には廓清會婦人矯風會の兩本部よりも私共の運動を助けるが爲に諸兄姉が大阪に參られた此時は以前北新地が燒けた時よりも運動がなしよかつた。それでも二十日間晝夜運動をした結果、「難波の遊廓は之を廢止す」との府廳よりの達示が出て、先つ以つて私共の目的は貫徹せられたのであります。

▲一大不敬に非ずや

公娼制度に對しては我々日本人は神經が、遲鈍になつて居て之を何とも思はない。是は常に耳目に觸れて居るので、狃れて居るからであります。然し群馬縣の樣な處に參りますと公娼なる者は一人も居ないから、氣も清々しく感じますが、他の所では如何にも厭な感じがします。世の中は進んで來て居ますが、此の大問題を忘れて居る人の多いのは眞に歎はしき事であります。殊に今年の秋には御大典を行はせらるゝ京都に、今以て遊廓が存在して居ると云ふ事は眞に恐れ多い事で大不敬に亘る事と思ひます。由つて去る四月の一日から三日間婦人矯風會の年會を京都に開かれましたが、其理由は、御卽位式のある地であるから、此地を清めたいと云ふので、こゝに開かれたので、其時の決議文は左の如くであります。

今秋御卽位式の大典を執行あらせらるゝに際し基督敎婦人矯風會第二十三回大會は左の件を決議す。

一、公會の席上に醜業婦を侍せしめざる事其他凡て風俗を紊亂する行動の取締を嚴重にせられんことを其筋に請願する事。

一、精神的記念運動として今後六年を期し公娼全廢を議會に請願する事。

私は母であります。子供の爲に、かゝる惡風俗を見せもし聞かせもするに忍びません。私は人々の家庭を清くしたいと思ひますが、其には日本全體を清めねばなりません。單に醜業婦に關する事ばかりではありません。日本の社會には此外に多くの惡しき風が行はれて居ります。そして人々は之を何とも思ふて居ない。例を擧げて申さば、去る四月十日の某新聞の、多分廣告欄であると思ひますが、こんな記事が書いてありました。小さな子供が酒を飮んで居る繪があつて『坊やのお父さんも元氣で丈夫、お母さんも丈夫です。是は酒を飮むからです』と云ふ樣な文句がありました。是が如何なる家庭へも這入つて、小兒も大人も讀んだり見たりするのでありますから、新聞は全然酒を飮めと敎へると同じであります。此新聞を見て西洋の或婦人が『かゝる記事を載せると云ふ事は、實に新聞の權威を墜すものである』と申され『日本ではまだ／＼かうであるから大に奮鬪して貰ひたい』と私共に申されました。實に其通りであります。私共は我國を清め、我家庭を清め、我心を清め、我生活をして純潔なる者とならしめんことを祈つて居るものであります。勿論私共は人間を愛する爲に十字架に懸られ給ひし基督を對象と致し、社會家庭の爲に盡したいと考へ、世界の同志と共に飽くまでも奮鬪しつゝあるのであります。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

醜業公認制度の誤謬(三)

東京帝國大學教授法學博士　上杉愼吉

□婚姻は男女永久の結合也

結婚の方法、動機初めより誤れるが故に、離婚の益〻增加するに至るは、蓋し當然の結果にして、諸國の統計は離婚の非常なる增加を示せり。婚姻本來の意義を蔑視せられ、人生幸福の源泉たること能はざるを示すに足れり。容易に合する者は、容易に離る。世人必ずしも離婚を以て重大視せず。初めより、面白く行かざれば、離婚する豫定を以て結婚する者も少からざらん。夫れ、婚姻は男女永久の結合なり。永久の結合に非ざれば、婚姻の本義完きことを得ず。云ふを俟たざる所なり。一時的なる男女の結合を以てしては、相互に滿身の愛情を盡し、妻は身心を捧げて、夫に服從すると云ふが如きは、之れを見ることを得ず。婚姻は性質上、永久なるべきものなり、親子の關係は永久なり。然れども、婚姻永久ならざるときは、親子の關係は永續、確定なることを得ず、婚姻を以て一時的なり、何時にても欲する所に從て、解消し得べき關係なりとするは、人生道德の基礎を崩壞し、人類を降して禽獸と同一ならしむるものなり。所謂る「パンタガミイ」(普通夫婦)に至れば、夫婦なし、親子なし、人類も亦自ら滅亡せんのみ。『パンタガミイ』は極端なる婦人解放論者の主張する自由戀愛』なり。自由戀愛の實行せらるゝに至れば、婦人は却て男子に屈從するに至るべし。而かも、正理に屈するに至るにあらず、男子の放恣なる情慾に屈慾するに至らん、(エリウス、デエポック、獨逸に於ける婦人問題の五十年、一八九六年版、第一五三頁以下)

故に、予は婦人の權利を主張する者は、民法定むる所の離婚の條件を輕減し離婚を容易ならしむるを以て、大に婦人の自由を保護する所以なりとして、之れを主張するは、其の志は大に同情すべきものありと雖も、却て離婚の條件を加重せしめ、又絕對的に之れを禁ずるを以て、正當なりとす。彼れ等の志は、誠に同情するに堪えたり。婚姻の腐敗は、前に述べたるが如し。婚姻は愛情の純粹なる結合たること能はず妻の人格は無視せられ、其の天分は蹂躙せらる。夫たる者の志操汚下にして、貞操を守らず毫も婚姻を尊重せざる者あらば、苟くも人類たり、婦人たるの自覺ある妻の、寧ろ、此の如き汚穢無意味なる婚姻より、離脫せんことを思ふに至るは寧ろ之れを當然なりと爲し、之れを思ふに至る婦人の心術を高しと爲さゞるべからず。夫婦の間に愛情の結合なく、却て反感嫉視し、婚姻は腐敗して、唯だ外形をのみ存するに至れ

るに、尚ほ之れを婚姻として継續すべしと云ふは、無意義なり、不道理なり。マンテガッツアなる者（マンテガッツア、愛の生理）の『人生を強制して、己の愛せざる者の愛行に、服從せしむるよりも、大なる苦痛は非るべし。』かゝる妻は娼婦よりも惡しゝ、娼婦は尚ほ多少の自由を有すと云へるは婚姻に於ける妻の悲況を訴へて、離婚を勸告せしむべき、理由と爲すに足れり。世の正當ならざる婚姻の狀態は誠に人をして離婚を容易ならしめて、妻の屈抑を救はん事を思はしむるものなり。

□實際的とは德義を寛にするの謂ひのみ

然れども婚姻の腐敗は、婚姻其のものゝ當然の性質に本づくに非ず、他の原因に依る。婚姻の本義は、其の永久なるに在りて、之れを永久となすに非ざれば、婚姻は不確定、無秩序となり、遂に絶滅に至る。婚姻の本義明かならずして、正當ならざる、悲しむべき狀態の大に行はるゝに至るは事實なり。然れども、之れが爲めに、婚姻其の者を亡ぼして、男女の一時の結合を常則と爲し、男女は共に之れを欲する間のみ結合すべきものなりとするは、本末を轉倒するの思想なりと云はざるべからず。

婚姻の本義重んぜられざるが故に、婚姻は腐敗せり。然るを其の腐敗の故に、婚姻の本義を革ためて、倒しまに離婚を許し、永久なる結合を解かんとするは何んぞや。若し德教大に興り、人各々人格を尊重し、婚姻の本義明かなるに至れば婚姻は自ら正常の狀態に反り、男女の純粹なる結合に依る人類の幸福自ら期待せられん。而して、此の如きは、一に婚姻を永久にして、解消すべからざるものなりとするに依る。故に、予は法律上離婚の條件は益々重からしむべきことを主張す。否、如何に之れを重からしむるも、離婚を許すを以て原則とする、今の諸國の制度に慊らざるなり。

かくの如くに主張するときは、人或は予を以て美術的なる空論を構成するものにして、實際に適切ならずと爲す者あらん。かのルッタアが宗教改革は、一に實際的見地より起れり故に、婚姻についても、之れに依りて婚姻の價値を汚下したるは爭ふべからず。ルッタアは男女の關係を見ること甚だ嚴格ならず。自己に都合の好き時は、國君等の蓄妾をも辯護せり。蓄妾も時の風俗に於ては、極めて實際的のものなりしなり。德義の嚴格を寛にするは、恐らくは常に實際的ならん。德義の源泉を渇うすることを力めずして、之れを世と共に汚濁するを以て、實際的と爲さば、初めより道德を云はざるに如かざるなり。

□離婚は主義としては禁ぜよ

離婚を容易ならしむべしと云ふは、誠に時弊に慨するの辭なり。然れども離婚を容易ならしむれば、時弊は或は一時は之れを救ふべしとするも、其根本亡ぶるが故に、婚姻の本義は遂に回復すること能はざるに至らん。婚姻は飽くまでも、永久を以て性質とすべし。之れを根本義として德教を興さば婚姻の腐敗は遂に止むに至らん。腐敗の故に法律も亦腐敗と

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

共に行かば、腐敗は永久に救ふべからず。離婚は主義として之れを禁ずべし。然らざれば、之れが條件を嚴にして、最も之れを困難ならしむべし。眞に永久なる婦人の解放は、獨り之れに依りて遂げらるべし。我が國に於て、予は屢ゝ、不幸なる離婚婦を見るなり。蓋し舊來の道德は、婦人に敎ふるに奴隷的屈從を以て婦女最高の美德と爲し、夫たる者如何に極惡不道なるも、敢て痛苦を訴へず、身を以て之れに奉ずべしと爲せり。之れ、妻に理性を蹂躙し、感情を滅殺し、木石の如くならん事を强ゆるものにして、其の不當なるは云ふを俟たず。然れども、貞淑の少女、能く庭訓を守りて、從順なるに、不逞惡虐の夫、屢ゝ理由なくして、此の憐れむべき貞婦を離婚する者あり。離婚せられたる者、志操高尙にして、舊時の道德と悖らんことを思はず、情思從順にして、之れを以て罪我れに在りと爲し、自ら不幸を悲しむのみ、又再緣せんことを思はず、一生を轗軻の間に送らんと覺悟する者多し。予は此の如き不幸なる婦人を見る每に、舊道德の犧牲と爲りし其情操を尊敬するの念禁せざると共に、大に其の境遇に同情せずんばあらざるなり。

此の如き同情すべき婦人を生ずるに至りし原因事情は、一ならざらん。獨り之れを離婚の容易なるに歸すべからずと雖も、予は深く彼の夫を惡み、此の妻の爲めに悲しみ、離婚なるものを以て、最大罪惡と爲し、之れを禁ずべしと爲すの感情を養へり。人或は云はん、法律は一定の場合の外は、夫婦の協議に依るに非ざれば、恣まゝに離婚を爲すこと能はざるものと爲す、不逞惡虐の夫と雖も、何んぞ、容易に貞良の妻を去ることを得んと。然れども、能く人生を知る者は、皆之れを熟知せん、夫之れを欲せざれば、理由なくして妻を去らしめんとすると雖も、妻たる者、決して之れに對抗すること能はざることを。協議に依ると云ふは、空名にして、事實に於ては、妻の同意は、常に强制せられ、貞良の妻は淚を吞んで、棄婦と爲り、悲慘の一生を送るに至るなり、獨り之れを舊式の嚴格なる庭訓を受けたる、日本婦人に於て見るのみならず愛情の純正を尙ぶは、婦人遙かに男子に過ぎたるに似たり、諸國の統計に依るに鰥夫の再婚する者、寡婦の再婚する者に比して二倍以上の割合なり。女子の肉體は一を以て他に代ゆることを得ん、少女の純粹不染の眞愛は再び得ること能はず、妻を去りて新婦を迎ふるも、精神的の滿足は到底得ること能はず。離婚を困難ならしむるは、純粹不染の眞愛を尊重するの主旨を有するものなり。統計に依るに我國に於て、離婚の多きこと、世界に冠絕す。

國別	年別	結婚一萬につき離婚
英吉利	一八八六年	〇、七
佛蘭西	一八八六年—一八九〇年	八、一
獨逸	一九〇三年	一〇、一
瑞西	一八八六年—一八九〇年	二〇、九
北米合衆國	一八八六年	二五、〇
日本	三十六年	七九、七

（高野岩三郎、本邦離婚統計一斑、統計集誌、三三六號所載）

驚くべき懸隔にあらずや。

□アルコホール問題

風俗の頽敗を誘ふ一大勢力は、アルコホールなり。故に、廢娼運動者、其の他風俗の振興を企圖する者は、アルコホールを一大敵と爲し、之れに向て戰を宣せり。

世界各國の人類が、如何にアルコホールを消費するかは、今事新らしく云ふまでもなからん。其の身體に及ぼす害毒も、人の普く知るところなり、醫家の之れを述ぶることも亦盡せり。諸種の重き疾病の原因は、飲酒に歸すべきもの多く、飲酒癖ある者の著しく早死するも、統計の明かに示すところなり。飲酒は又其の子孫を毒す。デンケ「アルコホール問題」は三〇〇の白痴兒の内、一四五は父の飲酒に因することを擧げたり。犯罪統計は、飲酒が大部分、犯罪の原因たることを示せり。アルホコールは自制の力を失はしむればなり。故に「飲酒は常に不品行を伴ふ。飲酒は經濟上多大の損害を惹起し。國民的勢力を衰亡せしむ。エルスベート、グルウケンベルグは獨逸青年の飲酒を以て、獨逸魂となすを慨し、かくの如くなれば、國民的競爭に於て、例へば非アルコホール運動の盛なる米國、又は節酒を重んずる日本に對し、勝を制すること能はざるべしと云へり。我れ等日本人、顧みて聊か忸怩たらざるを得ず。飲酒は百害の恐るべきありて、一利の見るべきなきは、人皆之れを熟知す。而かも、飲酒の風、益々盛なるは何ぞや。「アルコホール癖の、今日の如く盛んなるは、近世文明の結果にして、其の最大敵なり」（オテイリイ、ホフマン、婦人運動全書第二卷、第一九三頁に於て）

近時非アルコホール氣勢も亦盛んにして、例へば、彼の「青十字」同盟の活動の盛なるは、甚だ喜ぶべき現象なりと云はざるべからず。又歐米婦人が、庶民食堂を設け、酒に代ふるに珈琲茶の類を勞働者に供し、清高なる娯樂の具を與へんと力むるは、高尙なる事業として、特に推讃せざるべからず。青年の墮落を誘ひ、惡風を增長するものは、常にアルコホルなり。我が議會に、每年未成年者飲酒禁止法案を提出する者あり。予は大に其の成立に至るを希望せざるを得ず。然れども、世に墮落と云へば青年を聯想し獨り青年を攻擊して自ら直うせんとする者あり。或は曰く、壯年にして旣に惡癖ある者は、之を止むること容易に非ずと。其已を責むるに寬にして、我儘勝手なる驚くべし。予は青年の模範たるべく老成の人人に勸告す。直ちに禁酒すべし。諸君にして禁酒すること能はずんば、血氣旺盛なる青年の之れを離しとするは寧ろ當然ならん。予は殊に青年の模範たるべき敎師に勸告す身を以て範を示さんことを。

□私生兒問題

風俗頽敗して、婚姻の正理紊れ、男女の不規則なる關係濫行するの結果として生ずる、悲しむべき現象は、私生兒なり予は甞て新聞紙上に於て殆んど信ずべからざる驚くべき事實を讀みたる事あり。

某年、獨逸ライン河岸なる、フランケンタールに於て、一下婢の初生私兒生をライン河に投入したるの故を以て告發せられたるとき、檢事は下流和蘭界に至るまでの各地に、數日間に小兒の死骸の漂着せざりしやを知照したるに、凡て、三十八箇の死骸報告せられたりと云ふ。私生兒は常に犯罪を伴ふ。墮胎、初生兒殺人之なり。諸國の統計を概括すれば、出產兒の約一割は、私生兒なりと云ふ。我が國に於ては殊に多からんと信ず。私生兒の法律上の地位を如何に定むべきやは、從來立法上困難なる問題なり。父の責任を重からしむれば、墮胎增加し父の責任を輕からしむれば、殺兒盛行す。輕信にして世路の苦を知らざる少女は、惡德なる男子の欺く所となり、私生兒を生むに至る。其の父は貴族高官富豪も亦多けれども、一たび私通の自然の結果を生ずるに至れば、憐れむべき少女を捨てゝ顧みず。悔悟絶望は少女の自殺となり、殺兒となる。父は又屢ゝ敎唆して墮胎せしめ、殺兒せしむ。私生兒殺しの裁判は、常に絶ゆることなし。

而して憐れむべき少女は重刑に處せられ、眞の殺人者たる父は、平然として、社會に高翔す。罪なき子は、一生私生兒として、恰も罪人の如く、社會より擯斥せられ、其結果自暴自棄して墮落し、犯罪を行ふに至る。悲慘の極と云ふべし、

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

又統計の示すところに依るに、私生兒には死産極めて多く、嫡出の二倍以上四倍に達し、生後一箇月の死亡數も亦、之れに準ずと云ふ。

□人類の本分を侮辱せらるゝ婦人

之れ皆婚姻の正理認められずして、男女の關係紊亂し、婦人の人格の蔑視せらるゝの結果なり。若し、婚姻の制度の整頓すると否とを以て、國の文野を覗ふべしとすれば、日本は世界の最野蠻國なり。蓄妾、私通滔々として行はれ、娼婦社會の表面に跋扈す。婚姻外の男女の同棲するは、中流以下の社會には普通の事實にして、半は公に認めらるゝ所なり。私かに蓄妾するものあるのみならず、公然に名譽ある紳士の、妾宅を有するものありて世間も見て怪まず。娼婦は正式の宴會に侍し、交際場裡に出でゝ、事實上日本の上流社會の一部たり。新聞紙は皆日々娼婦の肖像を掲げ、其の逸事を特筆大書す。世界何れの國にもなき所なり。娼婦甲は某實業家の情婦なり、娼婦乙は某大官と親交ありと云ふが如きは、何人も見て訝まざる、日常の新聞記事なり。而して、某實業家、某大官は、之れを見て得色あるものゝ如し。眞に咄々怪事と云はざるべからず。政治家某の死亡するや、娼婦に關係する逸話を新聞に滿載したり、之れ等不徳男子の、病膏盲に入る者は姑く云はずとするも、予は某實業家、某大官と云ふが如き人々の夫人の平然たるを不可思議なりとす。夫人は其の夫たる人より、妻としての價値ある、適當の取扱を受け居らず。婦人たるの榮位を蹂躙せられ、人類たるの本分を侮辱せられ居るものなり。而して、平然として妻たり、母たりと稱し、人に面を合はして赧然ともせず。夫人等何を以て其の家庭を理し、何を以て其の子女を訓ゆるやを、借問せんと欲す。

夫の貞操を破るを見て、平然たる妻はやがて、自ら貞操を破るの婦人たり。世或は諸夫人の德を疑ひ、醜行を歌ふ者あるも、恐らくは辯ずるに辭なからん。予は諸夫人に勸告す、正を持して恐れず、堂々として、不徳の夫を詰責し、妻たるの地位を維持せんことを。之れ、諸夫人一人の爲めのみならず。全同胞婦人の爲めなり、實に日本風教の爲めなり。

かくの如くにして、風俗の頽敗其の極に達すれば、或は男色の流行となり、強姦となり、又未熟の少女を干犯する者を生ず。歐米に於ける多數の刑事々件の示すところなり。又巴里伯林等に於て、既婚の婦人の「トリバディズム」「レスボス島的戀愛」を事とする者甚だ多く、或は之れが爲めに、倶樂部、會堂を有し、益々蔓延するの色ありと云ふ。殆んど信ずべからざるなり。

嗚呼、婦人の本分明かならずして、其の地位の重視せられざる結果は、此の極端亡状に陷る。予は此の點について、婦人の解放の、甚だ道理ある主張たるを認めずんばあらざるなり。若し、婦人の地位正常に反へらざれば、德敎地に墜ち人類は遂に滅亡するに至らん。婦人の解放は、此の意義に於て、人類に對する救世の號叫なり。

然らば、婦人を解放して、其の地位を正常なるに反へらしめ、婚姻の純粹を保持して、婦人の天分を完うし人の人たる所以を發揮して、人類の亡びんとするを救ふの途は、即ち如何。國家の力、之れを能くする所に非ず。激烈なる婦人運動を以ても、之れを致する望むべからず。歸する所は、一に人心の改造あるのみ。敎育の感力を以てせざれば、此の正常ならざる狀態を救ふて、人類の永遠を期せしむること能はず。婦人の解放は、一に敎育に依る。婦人問題は歸する處敎育問題なり。（完）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

核心なき良妻賢母

廣岡銀行頭取　廣岡淺子

□婦人の特性を發揮する新傾向

婦人問題が非常に盛んに唱へられて參りました。私共婦人は無論良妻賢母で、家庭を作り子女を敎育するのが其本分たるは論を俟たないのでありますけれども、一面に私共は又社會國家の爲めに貢獻する處あらねばならぬと考へるのであります。然るに近來婦人として社會國家の爲盡す道が餘程異つて參つた。今日迄は自覺したといふ婦人自覺せんとする婦人達が男子と同じ方面に進み、男子の職業を奪はんとしつゝあつたのでありますが、最近に於て此問題が著しく進歩致しまして、男子と同じ繪を畫くにも、男子と競爭でなく、男子の出來ない處に婦人の新天地を開拓するやうになりました。假へば悲しみ惱んでゐる病人の爲めに、優しく溫き同情を以て撫で擦する、これは男子に出來ない女子獨得の天地であるが、一歩進んで男子と同じ繪筆を執つても其の描く處に別樣の趣を發揮する事に努め參つたのであります。假へば母が家事をしながら、其の眼は常に搖籃に眠れる愛兒の顏に通つてゐるといふ樣な風に、斯うした畫は男子には書けないのであります。辯護士になつても同樣の辯護をするのではない、女子でなくては出來ない天地がある、假へば茲に惡い一人の女がある、男子は此の女の心情を悟る事は出來ぬ、女子をさばくにはやはり性を同じうして其の心の底奥迄も衝き入つて同情し同感し得る婦人が必要である。又夫が無情で妻を離婚すると云ふ場合に其悲しみ其境遇にほんとうに同情して辯護する事が男子に出來ませうか、女子に非ざれば眞の共鳴を感じて之れが爲めに滿腹の不平を洩す事は出來ますまい。斯樣に只今は色々の方面に於て同じ仕事をするにも女子としての長所を發揮する、纎細であるとか、優麗であるとか、婦人としての特性を磨いて進んで行くやうになりつゝあるのは、非常に嬉ばしい傾向であると思ひます。

□核心なき良妻賢母

これ等の事は世界の潮流でありますが、翻つて我等日本婦人の狀態如何を考へて見たいと思ひます。

大洋を隔てた海の彼方の亞米利加はかうした潮流の最も澎湃たる有樣ですのに、日本に於てはたゞ賢母良妻といふのみで、社會國家の爲め貢獻する婦人の如きは曉天の星よりも寥々として、婦人問題を論ずるにも、總べての敎育にしても、

決して婦人は興つてゐない。婦人は恰かも、對岸の火災の如く心得て、婦人問題の大切な事、婦人高等教育の大事な事などは皆却つて男子によつて論ぜられてゐるのは、海外の同性に對して何たるお恥しい事でありませうか。

近來一般の風紀が段々堕落に近づいて來る事は新聞紙上に御承知の事と思ふ、眞に立派な家庭を營み、外見を裝ふてゐる婦人方も毎夜空閨に紅涙を灑いでゐる人は幾人あるでありませうか、同性たる私共は之れを見捨てゝは置けぬ、助けなくてはならぬ。新聞紙上に現はるゝ色々の會社或は銀行に關係して立派な紳士と云はれた人が、非常なる堕落をなして遂に鐵窓の下に呻吟してゐる者もいくらもある、これは元より男子の我儘、男子自身の罪たるは勿論であるが、之れに對して我等婦人は果してよく其本分たる賢母となり良妻となり得たといふ事が出來るであらうか、若し完全なる賢母であつたならば如斯息子は育てなかつた筈である、して見ると既に賢母の務めが出來てゐなかつたと見ざるを得ない。又眞の意味の良妻ならば溫き涙を以て忠告し夫の非行を悔改させるべき筈で、決して獄裡に呻吟せしむる樣な事のあらう筈はない。即ち良妻でなかつた證據である。日本の良妻賢母は摑むべき核心を捕へてゐないのではあるまいか、日本の婦人は今日非常に覺醒しなければならぬ時期に達してゐる。

□閑却されたる靈の教育

米國や英國の參政權運動は、餘り過激であり暴擧であるやうに思はれてゐるが、其實は男子が餘り我儘で、婦人の人格を無視し國家社會を危くし人類の發展を阻害し家庭の幸福を破壞せんとするから、勢ひ此の暴擧にも出づるのであつて、參政權運動をなす人達は神のみ旨に從ふ非常に立派な精神から運動されてゐる事は、凡ての雜誌等に表はれてゐる確な事實で、我々は洵に耻しい次第であります。英國でこそまだ參政權を獲ませんが、米國では既に數州に於て權利を得、非常な好成績を擧げてゐる。其州は清く正しく選擧を行ふにも日本のやうな腐敗はなく、正義公道の紳士を選ぶ。正しき神のみ旨に從ふたる婦人達だから禁酒州たらしめてゐる程で、實に米國に於ける禁酒州は皆婦人の權利を行使した結果である其他色々の細い處男子の氣のつかなかつた處に注意が行屆いて、博愛慈善救濟及び風紀の刷新に就て著しき成績を擧げつつあるのを見ますならば、婦人の解放、婦人の發展が人類の幸福の上に重大の效果のある事を否定する事は出來ぬ。

然らば何故我國には既に過去半世紀の間、婦人が相當に解放せられて居り乍ら、英米と大差を有してゐるのであるか、解放の程度、及び歷史の短かき等數ふ可きものがいくらもありませうが、私は申上たい、東洋では女子も男子も神を知らない、敬虔の念がない、眞實に神を畏れないから、種々の惡風俗が成長するのであつて、智育德育體育は相當に施され乍ら、靈育なるものが日本にはない。靈の教育は倫理では不可い、宗教によつて育てられなければならぬ、此靈育が行はれて始めて良妻賢母の搖がぬ基礎も定まるのであります。(講演大意文責記者)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

信仰の慰安

農學博士
法學博士　新渡戸稲造

□眞の意味の慰安

宗教とは何ぞや、宗教と迷信との差如何といふやうな事は學者が幾千年間論じても盡きる事でない、題して信仰といふのは敢て基督教に限らぬ、佛教可なり回教可なり、儒教神道にして宗教と云ひ得るならばそれ等の教にてもよろしい、宗教の定義に就ては之れを各人の解釋に任せるとして、私は信仰と慰安と云ふ事に就てお話して見やうと思ふ。

慰安といふものは心が何か不安を感ずる時、これではならぬと心を落付け、怪我に油を濺いで治るやうに不安が去る、之を普通に慰安といふのである。も少し具體的にいふと、茲に不幸な人がある、誰に苦悶を訴へん由もなく悲痛の幾日かを過した後、人生とは這麼ものだ、怨むも愚悲しむも痴と諦める時に、始めて慰安といふものがあると考へられてゐる。

けれども私は此慰安の意味をもつと深刻ならしめたい、慰安といふ語は何處から來たか知らないが、心の内に浪が立つ時これを穏にする意味ばかりでは物足りない、英語の『慰安』といふ字は他國にない語であると聞いてゐるが、語源は拉典語の『持』つと『力』から來たのであつて、力を與へると云ふ意味である。嵐が吹く時其の辛さを凌ぎ雨が降れば濡るゝのは世の習だと思ひ諦める、慰めを受身にのみ用ひるのは『慰安』ではない『憂き事の尚此上に積れかし、限りある身の力試めさん』、難義苦勞がもつと來れ、自分の力を試みてやらうとか重き荷を負ふのみでなく尚負つて進んで行く、苦しい情ないと思ひ諦めるのみでなく、其苦しみを土臺としてもつと高處に攀ぢ登る力を得る、之が私の云ふ慰安である。

□人生の醍醐味に徹底せよ

佛教に斯ういふ美談がある。若い母が愛兒を失つて寢ても醒めても忘れられぬ、悶々の情堪へ難く釋迦を尋ねて助けを乞ふた。然るに釋迦は、死んだ人のない家に行つて木の葉三枚貰つて來よ、さらば其子を蘇らしてやらんと云はれた。婦人はいと易い事と喜び勇んで所々方々を廻り歩いたが、行く家も〳〵一軒として死んだ事のない家がなく、彼女と同じ不幸を味はない人とてはなかつたので、始めて悟りを開いて諦めたといふ譚がある、之は洵に面白い物語りであるが私はこれ丈では滿足が出來ない、本文の説明を見ないから此一挿話を以て直に佛教の批評をするのではないが、不幸な人は私の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

みでない、世の中に不幸のない人とてはないから仕方がないと諦めるのは、雨が降ると濡れるのは當然だ、人生は重荷を負ふて佇むのだとつぶやくのと同樣で、慰安にはならない、可愛い子を失つた事から、子のある時よりもより大なる慰安が得られないものであらうか、蝶と愛で花と撫くしんだ子の死を泣くのは人間の至情ではあるが悲しんで淫せず世の中には私よりももつと可哀想な人達がある事迄解つたら、そこで百尺竿頭一歩を進める事は出來まいか。

昔から物の哀れ、憂き世、娑婆、假の世といふて何だか自分が間違つた處へ生れて來たやうに人間は感ずるものである。造物主があるとしても靈を與へられて現し世の人となる時途中で道を誤つたのではなからうか、地球に戸惑ひをして來たのではなからうかといふ氣もする、極力生を樂しむ一方に飛んでもない世に生れたと感じてゐる、どうも自分と世との間には食違ひがあるらしい、又物質的にも花が咲くと胸が爽かになるが「三日見ぬ間の櫻哉」で忽ちの間に永遠に散つてまた返らぬといふのは厭なもので、世が誤つたのか花が間違つたのか茲にも食違ひがあるやうだ。

人間は常に順境にばかりあり得るものではない、何だか今迄の約束と違ふ、今迄は欺されてゐたのではあるまいかと思ふ時もあるものである。結婚する時は兩方とも滿腔の希望を抱いて幸福に思ふが、之れが幾年、いや幾日續くか問題である。誰しく此家に嫁に來たのは間違つてなかつたか知ら、何だか話が違ふと思はぬ人はない、朋友の間にしても味方と思つて打明けた友が敵となつたりする經驗は誰も持つてゐる。

深く人生を觀ると――と云つて學問が要るのではない、只親切に人の事を聞くと――皆悉く憂と悲とを持つてゐる、「あはれ浮世」といふ本があるが、何も本を見るには及ばない、誰でも此の本を一冊づゝ懐にしてゐる。田舍宿屋の飯盛女に身上話を聞くと、親が死んだとか、夫が放蕩だとかいふ悲慘な境遇を知る事が出來る、若い女は元氣だから其麼話もあるまいと思ふと皆相應な悲しい物語を有つてゐる、それは貧乏だからと思ふ者があるかも知れぬが、慰安は金では買はれない、千兩箱を積んで徹夜を泣き明す者がある。ダイヤの指輪さへあれば幸だと思ふてゐるが、指輪で安心は買へない、指輪の二十本も箝めて泣いて居る者は幾何だか知れない、誰でも「あはれ浮世」の一冊を懐にしない者はない、地位や名譽や財産や學問があつても、人生の悲哀は土百姓の娘と同樣に味はゝなくてはならぬものである。

乍併此世と自分との食違ひは、それが深刻な程或意味に於て幸福なのである。人生の深味を知らないで昨日は花今日は月と浮れ廻つて三味線の音に我と我身を忘れてゐる者は如何ばかり禍であるか知れない、人生は恰も茶を飲むと同じく、茶は苦味迄行かなければ甘味が解らないやうに、人生の醍醐味も深い處迄行かなければ眞の味に徹底するものではない。人生の一局面に醉生夢死して、喜怒哀樂に深刻なる同感共鳴を感じ得ない人は決して幸福な人ではない、價値ある生活ではない、人生の苦味を啜り盡して玉露を玩味するに及んで其處に眞正の『慰安』がある。

□神の文字を讀め

然らば其の一身を顧み辛い悲しいかを諦める通常の慰安より一歩を進め、茶の苦い味の中から甘味に徹底すといふ力は何處から來るか、苦痛の堀井のどん底を穿つてゐると、苦みを超越して甘い泉が限りなく湧き出づる慰安の盡きせぬ泉があるならば、恐らく何人もこれを汲みたいと希望する事であらう。さうした力は何處にあるか、卽ちそは宗教の力に外ならぬ。信仰は實に此力を與へるのであるが、死ぬのは仕方が

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ないと諦めるのみでなく、更に進んで運命と觀ずる以上に、これが私の使命だと感ずるに至らなくてはならぬ。勿論朝から晩までヤケ腹を立てる者よりも、ありッ丈の力で運命を負ふ者の方が進歩してゐるには相違ないけれども、更に之が私の使命である、これで世の爲め何かしやうとするのが神の命令だと考へるに比ぶれば數等の段がある。免職の辭令を裂いてヤケ酒をあふる事を止めて、此の使命で新に人の爲めになるやうに盡したい、不吉な例であるが婦人が三行半の離縁狀を受けた時、這麼つまらぬ事はない、私に罪はないのにと腹を立てるのは下位の人、我慢して我身の不運と諦めるのは中位の人、此中に何か使命があるに違ひない、私が斯樣に酷い目に逢ふのには何等かの使命があると信じて、何か離縁狀の裏に神の文字が書いてあらうと探すとなると、心は清く澄み自ら人を幸にする、之が上位の人である。と云つて何も離縁狀を貰はないと宗教が味はれないといふのではない。物の裏面に書いてある神の文字を讀んで、より大處高處に行き、自ら安心立命し、人の爲めにも骨を折る、これが我等の使命であるとする事は、如何なる場合にも其機會はある。

□宗教の力

アルプス山に羊を飼ふ百姓は、鞭を揮つても羊が山を登らない時は、子羊を抱いて先に立つと、親羊は子の後を追ふて山路を辿るといふ。我等が此世の旅路を辿るのも同樣で、一人の愛兒が奪はれたからとて山を下るか、或は子に誘はれて高い山を登るか、これが大切な人生の岐路である。何の經驗でも見やうによつて下へ降りる動機ともなり、上に登る動機ともなる。花が自分の方に向いて咲いてゐないからとて枝を曲げるのは愚な話である、枝の方へ自分が行きさへすれば充分に花に打興ずる事が出來る。マホメットは『山よ我に來れ』と命じても山が動かなかつたから、自ら山の方へ登つて行つたといふ。古今集に『花散らす風のありかを誰か知る、我に敎へよ行きて恨みん』といふ風を恨む歌がある、私はこれを讀んで物足らない感じを覺へたが、その先の『吹く風と谷の水若しなかりせば、深山がくれの花を見ましや』といふに至つて、思はず會心の微笑を洩したのであつた。宗教は此心の態度で、世の中を愉快に見やうといふのである。

或日婦人が遠方より私を尋ねて來て、逆境に處するにどんな考を持つたら可いかと尋ねたので、私は毫も人を恨まないで正しい事は誰が何と云つてもやり通す、これより外に高尙な眞理はあるまいと答へて三時間程相語つたが、何うも要領を得ない、二度目に尋ねて來た時も不得要領に終つたが、三度目に面會した時談が宗教の事に及び、吾等はなる丈け微笑して世を送りたい、泣つ面は人に見せないで泣くなら獨り居る時に泣き度い、悲しい時にも天使の笑顏を見詰めて、どんな不幸の底に陷つた際にも、もつと嬉しげに天を仰いでゐたい、そして如何なる禍福も神より我に給はる委任狀で、然も之れが悲しめる者の涙を拭き、倒れた者を引起さねばならぬ辭令である。と考へたいと告げたが、その時婦人の顏がさつと變つて「それでいゝのですか、宗教はそんなのですか」と喜び勇んで歸つた。私はあんなに人の顏色の變つたのを見た事がない。

宗教家といふと葬式の前に立つた樣な顏をしてゐる樣に思ふが、基督はべそをかいて居られなかつた。結婚の席に列せられた時には大に座興を添へて喜ぶ者と共に喜んで居られた、宗教は何も悲むことのみではない、絕へずにこ／＼するのが宗教であらう。夫に打たれたり虐められたりする妻は多くの場合夫を死人扱ひしてはせぬだらうか、「死」の事ばかり考へないで一つやつて見やうと人生觀を一變させる力は宗教にある。（婦人大會講演大意文責記者）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

時論一束

慶應大學教授　向軍治

■今夏東京市の悲しき美觀

今年の夏は東京は一種の美觀を呈することであらう。きつと黑いものを着る者が無くなつて、誰も彼も白い浴衣を着て全市が白く光るだらうと思ふ。どういふ譯かといふと今年は染料が戰爭の爲め五割方高くなるからである。それに就て物價が一體に騰貴し、漸々生活が困難になる。此傾向は日本ばかりでなく加奈陀あたりでさへも物價は五割上つてゐる。亞米利加こそ戰爭はせず一人で金儲けしてよさゝうであるが、實は商賣は一人では出來ない、買手がないから同じく困つてゐて、世界中が頭痛鉢卷である。日本は實に今や累卵の狀態であつて、戰爭が濟めば景氣が直るなどゝ考へてゐるのは大間違、戰後の日本は一層の苦境難局に座する事になる。

■獨逸人の雄大なる抱負

戰後の疲弊から何處が一番早く恢復するかといふと、歐羅巴はすぐ傷が癒へる殊に獨逸は非常なる勢を以て恢復し、其商工業は日本に如何なる壓迫を加へ來るか分らない。

今日既に獨逸の英吉利に近いヘルゴランドの方面では、頻りに英語を稽古してゐる、これは戰爭が濟み次第世界に於ける英國の商業權をそつくり引受ける爲めに必要だといふ考へからである。以て獨逸人の高遠な理想雄大な抱負を知るに足るではないか。

■亞米利加の工業獎勵

亞米利加では、今度の大戰爭で獨逸の製造品が世界に出なくなり、始めて米國にこれ迄獨逸品が夥しく食ひ込んで居たのを知つて吃驚した。從來とて全く知らない譯ではなかつたが尨大な國で金も多いものだから、どの位獨逸に金を注ぎ込んで居つたか知らないでゐた。輸入途絕で始めて分つて之れは大變だといふのでエヂソンなどが大に行つてゐるから、戰爭が終る頃には獨逸品の侵入を防ぎ得るやうになるであらう。

■憐れむべき日本の工業

そこへ行くと日本など哀れな狀態である、外國品の勢力を知つても到底之を驅逐する事は出來ない。米國で一日に出來る仕事が日本では一ケ月かゝる、それぢや其機械を日本でも使用したらと思ふであらうが、日本では販路が狹い賣れ口が少いから其機械を据へても、出來上つたものがはけないで藏に積んで置かなくてはならぬ事になるから、やはり駄目である。逆に日本から海外に輸出する程の進歩を見ない限りは日本に大工業が行はれず外國に金を持つて行かれる許りである、學者がどんなに輩出しても、いくら立派な理屈を捏ねても、商工業が興らなければ國は保てるものでない。

■佛白和丁の滅亡と英國の衰運

隅田川に荷足船が泛んで居る、其傍へ蒸汽が通ると荷足船は非常に動搖する、日本なぞは荷足船で列國といふ蒸汽が右往左往すると沈沒しさうになる、いつ經濟上の波に呑まれるか分らない。それを政治家な

どはぼんやりしてゐる。私は三年程前に「今に歐羅巴から佛蘭西や伯耳義などいふ國は亡くなりますよ」と公會の席で述べた事があるが、私の豫言が着々當つて來たではないか、目下の處英國が持てるか持てぬかのみが問題である。

今日講和をするとすれば、聯合軍は屈辱的講和を取結んで今後獨逸の爲に頭が上らなくなるは明白である。だから英國としては飽迄獨逸を打潰す覺悟を要するのであつて、日本人が考へてゐるやうに茲半年やそこらで此戰爭は濟みはしない英國が滅ぶか獨逸が亡ぶかの問題であるから中途半端では止められない戰爭である。だから先づ四五年はかゝると見なければならぬ。獨逸を屈服せしむるには五年を要するが四年經てば佛蘭西が破産するであらう。

ベルギーは既に亡國となつたが今に和蘭や丁抹のやうな小國はなくなつて、獨逸の雄飛する時が來さうである。印度の獨立も遠からぬ内で、英國は窘窮し、日本は愈々困難な位地に立つ。

■噴飯ものゝ歐洲出兵論

此頃一番可笑しいのは歐洲出兵問題である。佛の前外相ピションなどが、嘗て支那に居つて義和團事件の時に於ける日本軍の勇敢を見た事があるとかで、歐洲に持つて來たら早く此戰爭も形つける事が出來るだらうと夢の樣な考へを持つてゐる。が歐羅巴では誰も本氣で對手にしてゐる者はない、彼等の眼中に日本兵などありはしない、自惚れるにも程がある。近來の滑稽である。

■謬られたる對支政策

對支問題で此頃大分もめてゐるが、皆袁世凱に操られてゐる。先達て伊集院彦吉が早稲田大學で講演したのを聞くと、袁世凱を當てにして居つては駄目だといふやうな事を云つて居るが、此の人などは現に袁世凱の藥籠中に丸め籠まれていゝ加減に操られてゐる事を、御當人一向氣がつかず、日本の對支政策を誤らしめた第一人であつたのに、今日漸く少しは眼が覺めたと見へる。

■二ケ師團増設是非共に愚

二ケ師團増設がいゝか惡いかなどゝいふのは何方も愚で、ほんとに必要であるといふなら二ケ師團はおろか六ケ師團でも足りない筈である。日本人が悉く兵になつて見るより外はない位のものであるけれどもそれが行れるかどうか、日本人が皆戰爭に出やうたつて實は經濟上出られはしない、打つ玉だけでもあるかどうか問題ぢやないか。聯合軍は今日迄でさへ獨逸から拂はす金が七百億圓と測定してゐる、一年に七百億圓なら一月六十億圓一日に二億圓の金がかゝる、大變な金である。こんな時代に皆兵にならうと云つたつて先づ經濟上の基礎が定らなくてはならぬ。何人居つたつてずどんと云つたらそれ迄で、戰は數ではない、二ケ師團などは必要といふ方も要らぬといふ方も共に愚論で、時勢後れたるを免れぬ。日々新聞がさう云つてゐるにも拘らず、此問題で議會を解散するなどは言語同斷である。

■日本の興亡は今後三十年

日本は今や累卵の狀態にあるが、今後二十年は大丈夫である。それは歐羅巴が戰爭の疲弊から恢復するのにどう見積つても二十年はかゝる、だから危險いのは三十年先で、此の三十年間にうんと努力をすると日本は助かる、それには我々の樣な老人は駄目、今日の青年が大に覺醒しなければならぬ。

■活氣なき青年

山が高いとか低いとかいふのには、自分の頭に何か

標準がある。今日の青年はどうもぼんやりとしてゐる、之れはどういふ標準からいふかといふに、差當り自分の若い時代を振り返て見ると一番分りよい、三十四五年も前の青年は活氣があつて今日の青年程ぼんやりでなかつた。たゞ當時と今日とは道德の程度が違ふから、酒を飲む事が罪惡であるなどゝいふ事はなく痛飲を試みたものである。藝妓を揚げるなども惡事とは思はれてゐなかつた。

■陸海軍戰爭を知らず

私はもう老人には愛憎をつかしてゐるたゞ青年を對手にしてどうにかして見たいと思つて努力してゐるが、何方向いても馬鹿ばかり、無學なものばかりで困つてしまふ。陸軍や海軍が戰爭を知らないのだから愈ゝ話にならぬ。今度の戰爭の如きも地圖なくして戰爭をしてゐる、そんな戰爭がありますか、日本の海軍は偉いの何のと云つたつて、日本には地圖がなく他の國のを借りて戰爭をしたではないか、日本人こそ知らないが、外國人は皆知つてゐるではないか。

■日本稅關の愚劣

日本の稅關などもよい恥晒しである。私の弟が橫濱の某會社に居るが、其會社では亞米利加から始終澤山の白金を取つてゐる、然るに稅關の役人がかけ目が違ふ、目方をゴマ化してゐるといふ。辯解する米人に日本語が分らず、稅關吏の英語が怪しいと來てゐるので要領を得ない、そこで弟が出て行つて段々調べて見ると白金を量るのに石炭を量る衡器を用ひてゐるのであつた。「石炭を量るのと白金を量るのと違うんですか、でも此の換算表は一つきりありませんがね」と云つたさうである。それから得心が行くやう態々中學の敎科書を出して見せて、「此通り中學の敎科書にさへ書いてある」と敎へて聞かしたさうである。處がこれのみに止まらず、今度量り直して見るとあべこべに目方が減つた、「それ御覽なさい」といふ「其麼事はないと云ふて又量つて見ると今度は又目方が殖へた。「そらごうです」と云つて食つてかゝるから、量る度に違ふやうな其麼不正確な衡器は信用が出來ない、一體此衡器は五十瓦以下は量れぬ器械ではないか、だから違ふのだ、もつと正確なのでお量りなさいといふと、「五十瓦以下を量る事の出來るのがありますか」といふ。それから何處其處にありますからあなたの方になければ借りてお出なさいと云つて、借りて來させ量つて見ると送り狀と分厘の相違もなかつた。世界的の大會社が其麼不正確なケチな事をするものでないといふてやつたが、外國人に對してはまさか這麼恥晒しを云ふて聞かせる譯には行かぬので、「なあに一寸した行違ひで」と云つてゴマ化した事であつた、情ない稅關もあつたものである。

■割引電車の不條理

東京市では此頃は午前七時迄、冬になると八時迄は學生勞働者の爲め、割引電車と普通車と交互に發してゐるが、一日割引車に乘つて往復を買ひ、翌日其復の方を持つて割引時間内に、今度は普通車に乘ると、車掌は不可ませんといふ。いけませんと曰はれた老人は仕方なく別に切符を買つてゐたのを見て、私は車掌なんかに云ふても解るまいと思つたが、見るに見兼ねて理窟を說いて聞かしたが矢張り分らなかつた。

割引切符は割引時間内は通常車に乘れないのだといふ。そして割引時間後はどの電車に乘つてもいゝのだといふやうな分らぬ事になつてゐる。割引時間後何れにでも乘れる位なら割引時間内は猶乘れなくてはならぬ。一體あの返りの切符は既に色が赤からうと通常の切符と値打の變らない筈のものだ、割引電車に乘つたものに五錢で往復の割引をした丈の話で、それだからこそ現に割引時間後には乘せて居るではないか

■電氣局のへまな數々

以前は電車の乘換停車場は、交叉點を行き過ぎて止まつたものである、這麼事をするから混雜するのだと時の運輸課長に二時間も論じて聞かしたが分らない、六年間もそれをやつて此頃やつと無くなつて、大概交叉點の手前で止まるやうになつた。乘換切符に就てももつと簡單な方法を敎へてやつたが、相變らずあんな面倒な思ひをしてゐる。

先日、土橋から四谷見附に行かうと思つて赤坂見附行の電車に乘ると、乘換切符を寄越さない、四谷迄行くかと聞くと赤坂見附迄行つて見ないと分らぬといふ。それなら乘換切符を寄越しなさいといふと、赤坂見附迄行つて見て愈々四谷迄廻らなかつたら其時出すといふ、それは不可い、私は四谷迄行く爲めに金を拂つたのだから、四谷へ行ける丈の切符を買はなくて

はならぬ、今それが出されぬといふなら、こつちも今金を拂ふ譯には行かぬ。赤阪見附迄行かなければ分らない以上、此方は四谷へ行く爲に賃金を拂つたのだから、それ丈のものを貰はなくてはならぬ、切符がすたるかすたらぬか、それは電氣局の勝手であつて客に强ゆべき性質のものでないといふ事を說いたが、勿論解らう筈はない、乘合はした職人が何をいふかと思ふと、「赤坂見附迄行きや出すといふからいゝぢやないか、分らねえ奴だね」といふ。困つたものだ、私は彼等が自分で云へないから彼等の爲めに云つてやつた迄であるのに、却つて私を解らないといふ。

■人の子を殺しつゝある文部省

一體今日の文部省は、敎育するんでなくて人の子を腦に於ても肉に於ても靈に於ても殺しつゝある。小學校の生徒を御覽なさい、家に居る時は障子が少し開いてゐても『寒い〳〵』と云つて閉めさせ暖爐や火鉢の側に溫にして置いて、學校へやると、忽ち火の氣のない寒い敎場に冷へ切つた堅い木の腰掛に掛けさせられて、慄へてゐるではないか、這麽敎育の仕方が何處にある、庭木にしてもさうである。溫かくしたり寒くしたり、溫室に入れたり寒風に晒させたりすれば枯るゝより外はない、昔のやうに家庭に於ても、學校に於ても寒中胸をはだけて『涼しいね』と云ふてゐる位鍛練さするのなら、それもよからう、昔は寒中跣足で簑を被て今日の樣なシャツもなく練へたものだが、今日はさうした鍛練をするではなくたゞ子供を虐待してゐる。今日の時代は昔のやうな鍛練が出來ないなら學校も家庭同樣溫かにしてやらねばならぬ。這麽子供の可愛くない國の前途は想像するに難くないではないか。

■角を矯めて牛を殺す

子供は本來十五分間以上じつとしてゐられない性質のものである、『宅の子はいゝ子でしてね』などゝ溫順しいと云つて誇つてゐる愚人がある、荒ばれるのが子供の特質で、それがじつとしてゐるならそれは病人だ、何でいゝ子な事があるものか、それを學校では四十分以上も動かさぬ、丸で病人にする稽古をしてゐるやうなものである。這麽事をするから年々國民の體質が劣惡になるのであつて、徵兵檢査の成績を見たら少しは考へさうなものだ。十五分間位敎へてあとは遊ばするがいゝ、一體こんな子供の性質を無視して詰め込まなくてはならぬのは、文字が惡いからで、ローマ字にして了へばもつとずつと簡單に出來る。

一體敎師と生徒とは差がある程いゝ、だから小學校の敎師が敎師としては一番いゝ筈である、大學に行くと差が僅に五分間になつて來る、五分間とはどういふ譯かといふと、五分間後には辭典を引いて敎師も同じになるから、辭典を引く時間丈けが偉いのである。

■眼が開いてる悲しさ

盲啞學校の生徒は、今の小學校の六年敎育を四年間で終へて居る、眼の開いてる悲しさは、二年餘計にかゝるのである這麽馬鹿な事があるのは一體どういふものであるか、日本の小學敎育の誤つてゐないと云ひ得るか。

それに下層社會では十歲以上になると、家事の手傳をさせねでは困る、それを六年の間一日學校に引上げて置くので家事の手傳もさせられず困つてゐる。學校は一日に二時間で澤山である。現に葉山邊りでは親が泣いてゐる、ほんとうの船乘りにするには六歲から仕込まなくてはならぬ、それを無理に學校に引上げられる爲め、小學校は卒業しても船乘りにはなれず、半端な人間ばかりこしらへてゐる、おまけに月謝を取るなどは不都合千萬で、國家が自分の爲めに子供に敎育を强いながら、金を出させるといふ無法てな事があるものでない、獨逸人など笑つてゐる。（五月一日麻布青年會と廓淸會の聯合演說會にて講演大意文責記者）

危險なる女子の貞操

宇都宮光盥生

『罪惡の裡面に女あり』と云ふ言葉が果して眞理だとすれば、又罪惡の表面には必ず男あるべきは當然な譯となる、されど吾輩は更に一歩進んだ高い立場から臨んで『罪惡の全面に男あり』と云ふ事實を認めたのである、眞に然り男子の不貞潔こそは社會凡百の腐敗紊亂の導火線である。

今春早々都下の新聞上に於て、社會の耳目を驚嘆せしめた、彼の相州鎌倉の尼僧殺害事件の如きは實にそれではないか、その被害者たる尼僧某女の死體が尋常一樣の死體ではない、陰部に怪しき負傷があつたと云ふことから推測すれば、何者かに淫事を強いられて反抗した結果であることは、最早や疑ふ餘地はない。

これに就て思はれるのは俗塵を避けて浮世を外に圓頂黑衣の信仰生活に委ねたる身にも、又斯の如き慘ましい魔の影がこの周圍を往來して止まないのか、あゝ人間女と生れるほど危險なことはない。

又四月廿八日下野新聞の記事を見ると、栃木縣那須郡下江川村尋常小學校本科正教員〇〇〇子なる婦人が忌はしき嬰兒絞殺とやらの件にて突如免職となつたことである、その理由は彼女が在職中此の近村なる荒川尋常小學校准訓導某なる男に秋波を寄せられたが動機で密通し、終に姙娠するまでになつた。所が一方某には豫て妻もあり子もある身の上、今更ながら如何とも爲す術もない、そして彼女は女心の淺ましさに、その產落した嬰兒を絞殺する如き始末に至つたのである。

おゝ諸君よ、この聞くも汚はしい二個の犧牲に對して如何なる感想をもて見られつゝありや。思ふに彼等は肉に飢へた野獸の如き男子が性慾の犧牲となつたのではないか、實に人生是より大なる悲慘の事は何處にあるか、殊に前者の如きは純潔なる宗教家であつた丈けに飽くまでも抵抗してよく自己の尊い操を守つたのであるが、若し彼が「命あつての物種子」と身命を全ふすべく暴漢の乞を容れたとすれば如何、それは云ふまでもなく後者の如き運命に陷るべきは當然ではないか、尼僧と女教員、彼等は何れも職業的關係から見ても決して世の卑俗淫猥な婦人ではないことは云ふまでもない、これ等は餘程注意すべき問題の一である。一は死し一は犯罪に、純潔無垢なる女性をして斯の如く恐しい地獄のどん底に蹴落して省みない、これ果して何者の罪か、世には女學生の墮落とか、女教員の墮落とか、看護婦の墮落とか云ふて凡て職業婦人に對する醜聞の喧しき今日の如くはない、されどこれ等の醜聞を耳にした時には世人は宜しく眼を閉ぢ耳を拭ふて靜かに冷かにこの眞相を窺ふべきである。

「口でけなして心で惚れて蔭で通ふて知らぬ顏」これが現代の男子が醜業婦に對する態度だ、彼等は宴會の席でも何でも女が居なくては淋しいな」とは直ぐ連發する言葉である。あゝ「女が居なくては淋しい」この言葉の裡には直に恐しい爆烈彈が包まつて居る、そして彼等に限つて吾等の運動に對してはオツに澄し込んで所謂第三者面をして居る者が多い、凡そ婦人を見て色情を起したる者は心の中ですでに姦淫したる者なり」主義を推廣めて吾等は大に努力する考へだ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

凡人の微力

加藤冬作

本月十五日發行廓清第五卷第四號安部副會長言論中に『大隈伯の如きは確に公娼制度は斷じて廢止せなければならぬと考へて居られる人であると私は信じてゐるから若し輿論が充分に之を推すといふ事であるならば今の內閣は喜んで公娼制度の全廢を敢行するに相違ない云々』の言あり余も同感にして爲政者にして斷行せんと欲するも輿論相反するが爲め躊躇逡巡することも多々あるべし然り而して大隈伯の如き世界的偉人として萬國に喧傳する人士にして尙且つ輿論薄弱の故を以て善政を敢行し得ざるとすれば勢力微々たる其以下の下級官吏にありて長官の鼻息によりて一喜一憂し戰々兢々として其地位を保たんとする者にありては敢て怪むに足らず實に川崎事件に對する某保安課長其他の無能、非理、僞罔、食言は、常識の外にありと雖彼等の心理狀態は川崎暴行當日同町の某理髮店が山田氏の休憩を許さず又山田醫院が治療をすら拒みたるも同一の動機に出でたるものにして卽ち何れもパンの問題に對してより安全なる策に出でたるに外ならず川崎町町民の大多數が廓清側に同情したるか或は當事者に熾烈なる後援あるか將又上長官が某保安課長に鶴の一聲で何かの聲援を與へ課長をして自廢處分後醜類の追窮に對し『余は遊廓側に同情の解決せんと努力せざるにあらざりしも何分上官の命令にて止むことを得ざりし』と彼等に責任廻避の道を講ぜば今回の如き反理の食言をして迄遊廓側の意を向へんとの行動に出でざりしと余は推察するものなり要する皆輿論の薄弱に歸著す我等會員の末班に列するもの余の如き平々凡々にして議政壇上縱橫の論議を戰はし一擧にして公娼全廢を斷行せしむるの能なく又警醒の大文章を草して一大輿論を喚起せしむるの學識なきものは唯大河を潰せしむる時に一小蟻穴に源由することあるを想ひ凡人の微力を盡して有らゆる機會を利用し幹部と相呼應して廓清の事に從ひ聊か日本國民たるの義務を果さんため讀者の一粲に供せんと欲するもの左の如し

一、廓清會を廣告すること

會員は廓清會の趣意を友人間に傳播する能はずとせば有らゆる機會を利用して廓清會といふ會の日本に存在することのみにても世人に知らしめよ若し春風に紙鳶を放たんとならば廓清會と大書して飛ばすべし。

或は照魔鏡を路傍に建つるも可なり。

廓清會本部の目の下にある銀行の支配人にして尙廓清會の存在をだに知らざりし實例もあり是れ凡人の微力にてなし得る廣告法ならずや。

二、新聞雜誌を利用すること

新聞紙に歡迎せらる如き警醒の大文章を投稿し能はずとせば花魁道中の如き計畫を實行せんとするとき俳句に狂詩に川柳に狂歌或は一口噺其他有らゆる方法に於いて各自其長ずる技により大に投書し諷刺して世に警告を與ふるにあり萬一其投書採用せられずとするも撰詩者の注目を得たるのみにても多少の益あり況んや當選して懸賞を得たりとすれば世人を警醒して己れも亦益を得るものなり凡人の戰場として國民新聞の壁訴訟欄及都新聞の讀者と記者欄等の如きは會員諸君の大に利すべきものなり

右の外年賀郵便を利用して元旦第一の便を以て短刀直入樓主に向つて廢業を勸告するも可或は地方靑年會敎育會又は郡會議員等にして其地方に遊廓設置に反對奮闘する無名の士には感謝の辭を送り又は持合せの廓清を寄贈して材料を提供して聲援すべく自廢成功の記事の如きは地方の新聞にも報告して二重にも三重にも揭載せしむべく其他讀了の雜誌を附近のミルクホール、理髮店、圖書館、集會所に或は友人、隣人、車夫、馬丁、立ン坊等有らゆる階級に公布して輿論惹起に努力すべきに非ずや敢て識者の批評を請ふ。

短篇

春の家

大石枕月

其の二　續自我問題

ごつこいせう、先づ占めた、是れでやつと電車なものしたといふもんだ。

物珍らしさうに何の事だい、黑ひ頭の動物一齊射擊に此方を向いた。ヘヽア我輩の顔から五光が輝いて居るんだらう。

エヘン〳〵と咳拂をして、天下の色男は乃公一人とすまして居る奴さんの出立如何とみておれば、黑の中山高帽に駱駝の襟卷、當世流行の短靴遊いネクタイに粋なピン、霜降三ツ組の脊廣服に、スコッチのオバーを羽織り、七寶燒付の時計の鎖をチラチラとチラつかしてゐる。

眼鼻質ちも萬更捨たものでもなし。道理で眞丸な眼ん玉が二ツあり、顔の眞中には富士の樣な鼻が一つ。

成程恰好がよふて筑波山脈の樣な鼻筋が御尻まで通つておるからには什ふみても千石取の殿樣だ。加之我が庵は松原續き海近かく、……チヤン〳〵寄席ではあるまいし浮かれるない。

ハヽア分ツた、奴さん甘ひ酒ごころか、不景氣で三度の粥もすゝれねえで、窮すれば達すの結果妙計を案出し、三錢の半紙で年始の酒を一升も馱羅腹馳走にありついたんだな。

ヘン面黑くもない、其所等に醉拂ツて庇吐でもつかない用心しろ、赤袮安の喧嘩の酒や、葬式饅頭は當世紳士に通用せんよ。

所で富士の高根を軒端にぞ見ろ。三保の松原清見寺、早手廻に夏向きの御髭がちやんとあるんだ。

何だと俺等又病氣でもしたかと思ふたら、其れ聽いて安心した。蓋し夜見世のステツキかれ、娯めく〳〵、大きに御苦勞樣な事だ、人の事を頭痛に病むより、自分の足許でも氣を附けろ。今の若さに頭が禿げるぞ禿たが最後可哀想でも彼娘に厭はれ、俄か成金の婚姻政策が越中式に向ふから脱れるぞ、其の時失戀だなぞと餓道往生しない樣にしろ。成程其所等が燈臺下暗しといふんだらうれ。

諷々爵々の議論、氣焰萬丈當るべからざる概ありだれ。それはさうと此所はご所だい、須田町だ。さうか然らば廣瀨中佐の義勇を振ふて、杉野兵曹的に今一席突貫するかネ。御苦勞ながら願ませう。だが先を急ぎますから最大急行で賴みますよ。簡單〳〵。さらば前回の御手續き………。

親爺が勝手に醜業婦と誤親類の交際を結び、酒池肉林の巢鴨でもみられぬ氣狂騷ぎを演じて居れば、家では、夫妾に無情れば妾又夫に無情し妙な所へ力瘤を入れて、亭主の目を偷んで、役者や男地獄乃至は仇男と痴態をして居る。

阿漕が浦に曳く網も度累なれば何とかで、知らぬは亭主ばかりの筈の亭主が勘付た、揚句の果が宿は妾を愛せない家の嬶は情がない、去るの出るのと勝手放題な熱を吐き、犬も喰はない亂痴氣騷ぎを演じて、隣近所の安眠を妨害したり、迷惑を掛ける等とは、誠に早や怪からん事である。ヒヤ〳〵嬶の惡きは百年の不作不品行亭主は一生の凶作、媒人の口は餘りあてにならずていな所だね。だが野合夫婦は倘困まるよ。

而もだ己れの破倫罪惡を棚に上げて、やれ小供が出來ないから神詣だ、偶にあれば放蕩だやれ無賴漢だ、乃至は虛弱だ馬鹿だと愚痴るに到つてはだ、蓋し頷が脫れて開た口が閉がらない。其れこそ木に緣て魚を求め、天を指して魚を射る如しだ。加之、七生切つての勘當だ、やれ三行半だ、やれ強異見だと以ての外だ、そんな事が效能があればだ太陽樣が西から出るよ、豆腐に鎹、糠に釘、馬耳東風お釋迦ではないが因果應報ていな所だ。

お釋迦ではないが因果應報ていな所だ。

薔薇の花は美麗で愛すべきを悔へて、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

棘あるを敎へず、之を弄んで罪を棘で責むる等とは、實以て言語同斷甚だ奇怪至極だ。 辯士其言尤も然りヒヤ〳〵。

所でだ、より以上に怪しからんのは、首相だ、大臣だ、やれ代議士だ、乃至は官吏といふ代物さ。

肩で風を切つて、大道狹しと横風を極め込んで歩行が、汝が意張價値何れにありやだ、衆生濟度も出來ないでさ、之れ卽ち官尊民卑の弊風さ。彼も人なれば吾れも人なり。

辭令の紙の有無の相違あるのみ、紙を以て一番偉ひなれば紙問屋、若し白紙ではいかんとなれば印刷屋が一番偉ひ事になる、如斯物を以てだ、靈長樣の價値が極まつておたまりこぼしがあるものか。

要は人間らしい人間、卽ち人格が尤も貴ぶべく敬ふ事が出來、之れに依りて始めて貴賤上下が定るんだ。

然るに彼等は人民の膏血で生活し、國利民福のため働かなければならぬ身で、自らも家國民人の福祉を增進すると宣言しながら、此の人道を什うしてくれる積りか。

試に其の主義政綱なるものを伺ふと、やれ外交が什うの、國防がこうの、内外債があゝの、やれ鐵道だ。米が廉いから不景氣だ、米が高い生活難だ、やれ人物登用だと、又積極だ消極だ其れ保護だ非保護だと、而も一樣に理想政策を行ひますと、聽て呆れてみて地獄

人倫道德の大本を定むる事をせずして何が理想か、如斯謬見を以てして居るが爲めに、碌な事は出來ない罪を敎唆して罪を法律で問ふ樣な甚だ矛盾した結果を生ずるのである。餘り口巾たい事を申して實ひますまい。本末顚倒も甚だしい、理想と實行とは一致しない、日蓮ではないが嘘も方便で逃をはろかれ。蓋し瓢簞鯰だれ。

其の瓢簞鯰の日支外交の樣に、のらくらして定まらない、畜生道と顚倒して居る人道の世の中にそんな理想政策が何の效果がある。

唯斷の一字あるのみ、腐敗した所は切開手術をして肉體中の黴菌は、秦博士にでも依賴して六〇六號の血清注射でも遣られば、骨がらみになつて六日の菖蒲十日の菊となる。

人倫關係が完全すればだ、政事家の所謂理想政策の如きは直ちに埒がつく譯だ、例せば國防でもだ、如何に二箇師團は更らなり、百箇師團增設した所で、畜類に劣つた三等症ばかりでは戰爭も出來まい

よし一歩を讓つて强兵とするもだね、平和の人道戰に負けて、子種が盡きたら如何に侵害征服して財産のみ造つた所で世を讓る小供がない場合は、其の財産の處分に困窮するだらう。折角の財産もめぐる因果の小車で、仇敵から養子を貰ふことになる、金は天下の廻持ちだから或は道樂なればよいかも知れないが、其れ位ひなれば始めから高價な犧牲を拂ふ必要があるまい、見易い例が眼と鼻の先の支那を御覽なさい。

孔子や老子が顯れて男女七歳にして席を同じうせずと唱導した當時の彼の國は忽必烈だとか成吉思汗とかいふ大豪傑や英雄があつて國威天下に輝いた、御陰と廣大な財産が出來上つた譯だが今日の支那人と來たら淫奔度し難く卽ち人道の頽廢した結果は各國から養子を迎へて、養子と養子との慾の皮の鉢合せでいつも戰爭舞臺にされて居るではないか何と人道戰の敗殘の有樣はハヤ悲慘ではあるまいか、之れを以ていふ支那人は亡國だと。

旣に一事が萬事、人間社會といふ以上、其の基礎たる人倫道德卽ち男女關係が確定しなければ何事も出來ない。敢て貧乏なる事も憂ふるに足らんさ、白金も小金も玉も何かせん勝れる寶子に如かめやも、 人倫定まれば健全なる子孫が出來る、健全なる子孫が出來れば偉大なる仕事が出來、偉大なる仕事が出來れば金は期せずして儲かる、壯健なる身體には健全なる精神が宿るから、虛榮とか贅澤費が省略される。之を以ていふ富國强兵の理想政策は男女關係を外にして他あらんやと。エヘン、世の經世家たるもの此邊をよく〳〵考へて欲しい。若し其が行ふ事が出來ないなら、寧そ凡てを廢して自然陶汰の法則に依た方が面倒がなくてよい。チリン〳〵車坂ハイ左樣なら。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

天籟之響

痛快なる罵倒

東京　加藤冬作

大正四年四月廿六日發行大阪毎日新聞第一萬一千四百四號第二面下段「硯滴」欄に曰く

▲飛行將校の人斬騷ぎが大宮に起つた。紳士の宴席に下駄を投げ込むさへ無法だのに、逃げ込む相手を追懸けて其宴席に闖入し二人まで人を斬るとは、人間の風上に置けない奴だ。▲其原因が藝者に振られた腹いせだ。と云ふに至つては近頃流行の不良少年も及ばぬ位の陋態である。▲國民が飛行家を珍重がり、愛撫するに付け上つて傲慢無禮なるは此の如し、兎角軍人の生意氣ほど手の付けられぬものはない、二個師團增設の前に、かゝる不良の軍人を征伐する必要があるだらう。

小生惟ふこんな將校の手で、二ケ師團の青年を呑んだくれの不良少年にして貰つたらば、國家は多大の財力を費して、二個師團の精鋭を增さずして、却つて二個師團の良民を墮落せしむることゝなる、敢て陸相の所感を問ふ。

初陣の首途にて

山形　太田彌三郎

私は未だ教徒名鑑簿には記載なくも、自分では慥にクリスチャンたると信じて居ります。故に天父の使命に依り光榮ある本會の一員に加つた以上は、是非目的を貫徹せずんば止まずと誓言致し、活舞臺に乗り出でんとするに當りて聊か申上度き事が御座います、イエスの御言葉に「汝等の内罪なき者は先づ彼を石にて打べし」(ヨハネ傳八〇七)と尚古語にも「他を正さんと思へば先つ己を正せ」とあるに、此際須らく反省自修を要すべきは、言を俟たざることゝ存じます。

故に我郷黨會員は皆禁酒禁煙を主張實行して居るは少しく誇とするに足る次第です、次に反對黨の愚論にて「廓清會なるものは我々農民の干渉は要せざるものなり」と嗚呼愚論々々噴飯抱腹に絶えざる事であります、何んとなれば國務を議する參政權も我々農民に與へらるゝ今日に於て、然かも、現社會が腐敗の度を増す程打撃の大なるは國家の支柱たる農民こそ第一ならん、故に此際農民の率先して入會すべき時期なりと存じます。

斯の如き愚論は取るに足らずとして、來るべききの日には天國の關門に於て天父より「惰れる僕ぞ爾ぢ、わが蒔ざる處よりかり散さゞる處より取ることを知るか(馬太傳二五〇二六)と云ふが如き御言葉は戴かざる樣今の内奮闘致すべき事である。

凡ての時を利用せよ

小樽　伊藤繁太

時を得るも得ざるもイエスの救の力を宣傳せよとはイエスの使徒ポーロの我等に遺された金言なり。利に敏き商人は火事場におすし又はおでんを賣り利を得んとする商人を見て機敏と賞讃する人もある。中にも吾等廓清の徒は徒らに引込思案に時を逸するに當らぬ事と思はれます。

北海道も開拓日淺く淫亂の行を以て開拓の先驅者たる如く誤解し居り、私娼のあるを以て其の町の繁榮のバロメートルの如く信じ居り、人民を覺醒するに別紙切拔の如き計畫を利用して、右博覧會に梅毒の經過即ち一期二期三期と病菌展開の模樣を表示せる模型人形を陳列する事を御實行せられては如何に候哉。

廓清會にて御實行の意志なれば、小生小樽區長等に運動致す事を辭せず、神の力によりて我が北海道を聖め給はん事を祈る。

月山麓より

山形　松田醉花

我村は五百許りなる一農村にて候が、昨年末より一軒の曖昧屋開業致し、地方青年の墮落せるもの幾何なるを知らず、當時僕は福島縣下に赴き居りしに友人より度々の手紙にて略々豫想し歸村致し候處、豈計らんや常々志操堅固にして我等の敬慕いたし居り候A君迄も……思はざりき僕の不在僅か二ケ月半、其の間に質朴なる我農村青年のかく迄腐敗せるかと思へば、恨めしくも恨めしく、そゞろ涙にむせび申候。此の上は本村の會員と協力其改善に務むると共に、此曖昧屋をして義戰の血祭に擧さしむる心組に候、世人或は生意氣なりと云ふものもあるべく、狂人なりと罵るものもあるべし、さあれ生意氣と云はれやうが、又狂人と罵られやうが、我々の後ろには前途光明赫々たる廓清會のひかへ居るぞよ、世間の悪評も何のものかはイデ猛進突擊地方廓清の實を擧げ目出度凱歌を奏せん日をぞ樂しみ居り申候、希くば我親愛なる會員諸兄姉よ、我々の微意を諒せられ一臂の力を垂れ給はん事を。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

熱血紅涙

■福島武吉君（鹿兒島）　御照會の縣下川内町に於ける遊廓新設の件目下探査中に有之候。當地は公娼こそ存在なきも私娼を以て有名な土地に有之、遊廓新設の運動頻り本部より斯る御照會に接せしは甚だ遺憾に存じ候、必ず近々内に詳細な報告仕るべく候。

■松田秀作君（山形）　先日御送附に預り候、廓清五部も太田君より買ひ受けしものもなくなり候に付、尚五部丈け御送り被下度願上候、尤も先日切手代用にて送りし阿部林藏君外長岡安藏、佐藤宗市、荒木一治の三名今日入會致す事に相成り候に付、其外工藤三代之助、工藤まつ子の兩名は勸誘中です。明日は太田君の勸誘せられたものと、一まとめとし御送金仕る可く候、既に入會者は十名（太田君の方と共）に達し候に付支部を設くるには、差支なきかと存じ候（尚五六人の入會の見込）間、支部設置に付、如何なる事項之あり候哉、御一報下さる樣願上候、婦人の方々を勸誘せん見込に候女子の方も入會の見込有之候。

■三井國助君（長野）　過般申上候、當郡教育者へ手紙發送の件は、來る五月各校職員確定を俟ちて御報知可申上候得共、貴社御發送の手筈は如何相成居り候哉時日の御都合何旁々一寸申上候。

■木村盤根君（府下）　江南先生よ、先生が深き御働きを紙上で拜見して、毎月血と涙を湧かして怒り且つ泣いて、やる瀬ない迄敬服と熱望で悶へて居ります同僚や、學校の演說會に極力公娼廢止を絶叫して見ましたが、未だ眞の教に觸れて居らない故、自分を愛する如き愛を他人に持たないので「雜誌の受け賣り」の悲劇を惡して殘念で堪りません。

先生の御働を髣髴するの時、何故先生の樣に之れを生命の問題として考へないかと慚愧に堪へません、潔よきエホバの働きを第三者で讚美するより、當事者になつて苦しんで見たい、先生の勞を慰むるに何物も持ちません、只祈つて――先生の爲め――居る青年が此の田舍に居る事を、御知らせします。（第四號を見て）

■浦野善比古君（長野）・廓清第五卷第四號に中野警察の自輕扱ひ振り御載被下誠に難有痛快に御座候就ては小生等立石兄等と謀り始末書的の上進書縣當局者に提出致し候に、當局者は是れでは警察署の失態に成り候故、誠に困り申し何れ一二日間待て二妓呼出再調しくれとて其の結果一日娼妓を意志なくして返しゝ故、當に上りて取り調ぶる事は、出來申さずとの返言現今は、西村辯護士より長野市本咲町辯護士大澤唯治郎氏へ申上中と聽き及候、如何にしても縣當局者としても餘りの無責任の言葉にては御座無候や、是より上は知事に警察署の始末書的の上進書提出致し候も聽入れ無之場合には本官長經由の上内務省に提出致す覺悟にて候、如何に御座候哉、色々なる件は立石兄より御報と存候間、綴書致さず、左の件に付ては幹部側にては如何に思召され候哉、是非とも中野警察署員の廓清事一と心得候又縣廳にて大澤辯護士ノルマン氏ホワイテングゲ氏立石氏四名にて、當遊廓に二妓を連れ其の意志をたゞすとの話を最早遊廓側の知る處となりしは不思議の沙汰と云はざるを得ずや。最も立石兄は五月の年會に御地立ち依り被下候答には候へども、其の節は、くわしき話御聽き被下度候

■ノルマン君（長野）　當地大澤辯護士より西村辯護士に對し、事件の善後策に付問合せ仕候處、何等の返信無之由貴下の御意見は如何に御座候哉、此儘放任致し惡例を殘さんは、實に殘念に御座候。

就ては小生近々神戸に出張仕り歸途東京に一寸廻るべく其節御面會致度本月二十三日の朝御地に參るべき心組に御座候間、何處にて御面會致すべきや、又御都合は如何に御座候哉。

■松田恒正君（鳥取）　其の後種々出來る限り募集致居候得共、早々其の意の通りに相成り不申、誠に殘念の至りに候得共、之れに敗軍の將とならず、益々猛進し貴會の御趣意を宣傳すると同時に、拙者の希望の萬分の一なりも盡したく候間、吾輩の心中を諒せられ御指導あらむ事を奉願候。本日の小包郵便正に領し候、就いては申込書以前の分は四方八方に散じ候次第乍御手數可成多分に御送付被下度願上候、亦其方法として鳥取縣支部假事務所松田恒正と云ふ名目を出す都合に御座候間、右樣御承知被下度候

■森信一郎君（中仙道）　不肖及ばず乍ら二人の會員を貴會に御照會申上候。卽ち大宮救世軍小隊の信徒なる小坂登一郎君と士官上野[illegible]君の二名何れも會費二十錢を振替にて送金致し候會の機關雜誌を、一日も早く拜見致し度候不肖等は及ばず乍ら救世軍と共に此の方面の廓清に大いに盡す考へにて候、出來得る限り會員を御照會申す可く候、小生は多數の會員の出來る事を好まず、生命のある會員を少數たり共、御照會致す考へに候。我々は一時も早く貴會の趣旨に添く日本國の來るを切に祈るものに候。

■尾花新藏君（長野）　前略小生鹽尻より[illegible]に轉居致候間、此段御通知申上候、次に廓清會ある事を知らしむる爲め、去年の春より毎號信濃日報鹽尻支局へ寄附致し居候、之れ主意を一人にても多く知らしむるものと愚考致候間、向後も小生の讀み終りたる後は配布致す考に候又面白きことあれば通信致可く候

■關井一君（福井）　御掲載の段、感謝の至りに候。小生も幾分廓清のため努力致居存居候も、未だ獨立し得ざる一青年にして衷心に滿足する程の事も致さず誠にはがゆく存居候。

大正四年五月十四日納本　一部定價金六錢
大正四年五月十五日發行（毎月一回十五日發行）

神田區今川小路一丁目三番地
編輯兼發行人　伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地
印刷人　小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地
印刷所　丸利印刷所
神田區美土代町三丁目三番地
發行所　廓清發行所

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

院長診察、月、水、木、金午前、入院隨時

林、峰間兩副長は目下當院に在勤

東洋內科醫院

電話番町六二一番

麹町區三番町三十番地

院長醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

南湖院

電チガサキ二番

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（大正四年五月十四日納本）（毎月一回十五日發行）

最近市内の有力なる小賣店の報告に曰く
クラブは一番品が良いので

齒磨モ白粉モ洗粉モ

近來クラブばかりが賣れて居ります

クラブは一番品か良いから
近來面白い樣に賣れて居ります

一部定價金六錢